

# 目 次

第1章 第4次高知市食育推進計画策定にあたって	
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の期間	1
3 計画の位置づけ	2
第2章 食をめぐる高知市の現状と課題	
1 高知市の現状	5
2 高知市の課題	8
第3章 食育推進の方向性	
1 基本理念とスローガン	9
2 食育推進の視点	10
第4章 計画推進のための取組	
1 取組の柱	11
2 具体的な取組	13
3 食育推進に向けた目標	33
第5章 関係者の連携・協働による取組	
1 食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」	34
2 高知市食育推進会議	35
3 高知市食育推進委員会	35
資料編	
1 食をめぐる高知市の現状	36
2 用語解説	56
3 検討の経過	58
4 高知市食育推進会議名簿	59
5 高知市食育推進委員会（庁内体制）	59
6 高知市食育推進会議条例	60
7 高知市食育推進委員会設置要綱	61

文章中の\*印は、資料編の「2 用語解説」をご参照ください。  
(複数回表記があるものは、最初のみ\*印をつけています。)

## 第1章 第4次高知市食育推進計画策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」ことを目的とし、平成17年7月に「食育基本法」が施行され、翌年3月には、「食育推進基本計画」が決定されました。現在は令和3年3月に「第4次食育推進基本計画」が策定され、生涯を通じた心身の健康を支える食育・持続可能な食を支える食育の推進などを重点事項とし、食育によるSDGs達成への貢献をめざし、食育推進に取り組んでいます。

本市では、国の策定した食育推進基本計画の内容を踏まえながら、市民の健康、豊かな資源や独特の食文化を守り、市民自らの取組を支援するために、食育の推進に関する施策を総合的かつ計画的に進めるための計画として、平成21年3月に「高知市食育推進計画」（以下「第1次計画」という。）を策定し、5年ごとに改訂を行い、食育推進に取り組んできました。

第3次高知市食育推進計画（以下「第3次計画」という。）の期間は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、食に関する活動が制限され、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。

第3次計画が令和5年度で計画期間を終えることから、計画の評価と課題の把握を行い、国の計画を踏まえ、本市の特徴を活かした「第4次高知市食育推進計画」（以下「第4次計画」という。）を策定し、これまでの取組の変遷を念頭に置きながら、新たな健康課題や社会背景などを踏まえ、より効果的に食育を推進していきます。

#### 「食育」って何？

◎生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるべきもの

◎様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てること

（食育基本法 前文より）

### 2 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度から令和11年度までの6年間とします。

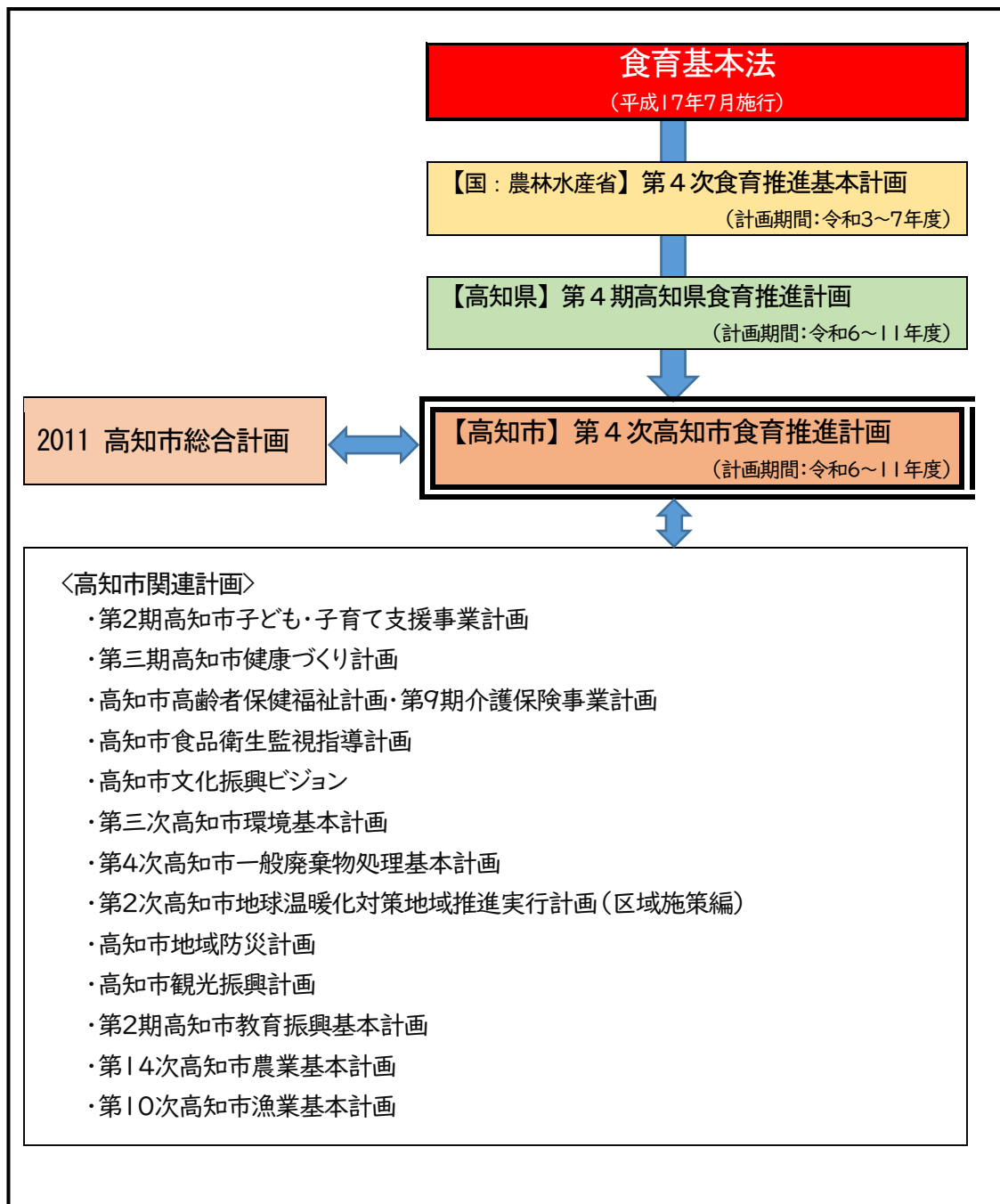
なお、社会情勢の変化などによって見直しが必要となった場合は、計画期間内であっても必要な見直しを行います。

### 3 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法の目的・基本理念を踏まえた、同法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として策定するもので、本市における食育を推進するための基本的な考え方を示すとともに、食育を具体的に推進するための指針です。

また、本市の関連計画との整合性を図りつつ、食育の取組を効果的に推進するものです。

#### 【各計画の関係図】



## 【SDGsとの関係性】

「2011高知市総合計画 後期基本計画」では、SDGsの推進と活用を計画の推進方針として位置付け、総合計画とSDGsの同時推進が生み出す双方向の相乗効果により、さらなる総合計画の推進を図ることとしています。



出典:国際連合広告センターWEB サイトより

### SDGsとは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略。2015年9月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴールと、それを実現するための169のターゲット(達成目標)で構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」と誓い、包摂的な社会の実現をめざして、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこと。

### 食育推進のための具体的な取組とSDGsの対応表










		1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに
(1) 生涯を通じて健康なこころと身体のための食育	①基本的な食習慣を身につけるための取組	●	●	●	●
	②生活習慣病*を予防するための取組	●	●	●	●
	③低栄養*を予防するための取組	●	●	●	●
	④歯と口の健康のための取組		●	●	●
	⑤安全な食生活を送るための取組		●	●	●
	⑥災害に備えるための取組		●	●	
食育 食をつなぐための(2)次世代に豊かな	①環境を大切にするための取組				
	②高知の食(食材・食文化)を大切にするための取組				●
	③農林漁業への理解を深めるための取組		●		
	④人の輪をつなげるための取組				

本計画においても、SDGs の17のゴールのうち、次の13のゴールを念頭に、市民や地域、行政、関係者などが協力・連携し、食育の推進を通じて、持続可能な社会に寄与することをめざします。

「第4次高知市食育推進計画」に関連する主なSDGsのゴール

	ゴール	内 容		ゴール	内 容
	1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる		11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
	2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する		12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
	3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
	4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する		14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う		15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
	6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する		17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
	8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する			

出典:外務省「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

								
								●
●								●
●								●
								●
	●		●	●				●
			●		●			●
				●		●	●	●
		●				●	●	●
						●	●	●
						●	●	●

## 第2章 食をめぐる高知市の現状と課題

### 1 高知市の現状

#### (1) 高知市食育に関するアンケート調査結果

第3次計画を評価し、第4次計画を策定するため、「高知市食育に関するアンケート調査」を実施しました。調査結果に関する詳細は、資料編に記載しています。

高知市における食をめぐる現状を整理すると次のようになります。

#### ①食育への関心について

- 食育に関心がある人の割合は5年前に比べ、20歳代で特に高い。また、全体では約8割が食育に関心がある。
- 食育の実践では、幼児は「食べ物を大切にする」「食事マナーに気をつける」「栄養バランスのとれた食事をする」の割合が5年前と比べ低い。
- 食育の実践では、小学生は「食べ物を大切にする」「食事を作ってくれた人へ感謝する」などの割合が5年前と比べ高く、中学生ではほとんどの項目で大幅に高くなっている。
- 成人では「1日3食食べる」を実践している割合が5年前に比べ低い。

#### ②現在の食生活について

- 幼児、小中学生とも、朝食を食べる人の割合が5年前に比べ高い。
- 若い世代(20~30歳代)では、男女とも朝食を食べる人の割合が5年前と比べて高くなっているが、他の年代に比べると依然として低い。
- 朝食を食べる人の割合は、成人全体では5年前と比べ、ほぼ横ばいであるが、50歳代以降はやや低い。
- 朝食の欠食理由では、小中学生や若い世代では「時間がない」の割合が高く、また、小中学生、成人では5年前と比べ「食べる習慣がない」の割合も高くなっている。
- 幼児、小中学生では就寝時間が遅いほど、朝食を食べる割合が低い。
- 「主食・主菜・副菜」をそろえて1日2回以上食べる割合は、5年前と比べ若い世代では高くなっているが、40歳代以降では横ばいか低くなっている。
- 若い世代の女性は全国と比べ、「主食・主菜・副菜」そろえて1日2回以上食べる割合が高い。
- 外食や惣菜・弁当を選ぶとき重視することについては、30~40歳代は「その時の気分」、他の年代は「好きな料理」の割合が高い。幼児保護者でも「好きな料理」を重視する割合が最も高い。また、暮らし向きでみると、ゆとりのない人ほど「価格」を重視する割合が高く、ゆとりのある人ほど「栄養バランス」を重視する割合が高い。
- 食生活の問題では、若い世代では「欠食、時間が不規則、栄養バランスの偏りがある」の割合が高く、40歳代以降は「食べ過ぎる」の割合が高くなっている。
- 7種類以上の食品群を毎日食べている人の割合は、70歳代が1番高く、60歳代はその半分程度である。

#### ③共食\*の状況について

- 朝食を誰かと一緒に食べている中学生の割合は5年前より少し高くなっている。夕食を誰かと一緒に食べる小学生の割合は少し低くなっているが、中学生では高くなっている。
- ひとり世帯では他の世帯構成に比べ孤食\*の割合が高く、60~70歳代ではより高い。
- 家族以外の人と一緒に食事をする機会は5年前に比べ減少している。
- 家族以外の人と食事をする機会があれば参加したいかでは、参加したいと思う人の割合は5年前と比べ、70歳代以外で高い。全国と比較しても20~50歳代では参加したいと思う人の割合が高い。

#### ④生活習慣病の予防や改善に関する実践状況について

- 生活習慣病の予防や改善のために気をつけた食生活を実践している人の割合は、全国より低い。
- 減塩の取組については、5年前に比べ、どの項目も実践している割合が高くなっており、また、減塩に気をつけた取組を実践している市民も70歳代以外で高くなっている。
- 口の健康のために気をつけていることでは、どの年代でも「丁寧に歯をみがく」割合が最も高い。5年前と比べ、40歳代以外では「定期的に歯科医院を受診する」割合が高くなっている。
- ゆっくりよくかんで食べているかについては、5年前に比べ、小中学生は高くなっている。また、成人も高くなっているが、全国に比べると低い。

#### ⑤食文化について

- 伝統的な行事の食べ物（おせち料理や七草がゆ、冬至のかぼちゃ料理など）を家庭で食べることがあるかについては、5年前に比べ、幼児、小中学生、20～50歳代で低くなっている。
- 高知ならではの料理や食材（皿鉢料理、いたどりなど）を食べたことがあるかについては、5年前に比べ、幼児、小学生は低く、中学生は高くなっている。
- 地域の人や家族と高知ならではの食を楽しむことがあるかについては、70歳代以外は5年前と比べ高くなっている。
- 街路市\*の利用については、5年前に比べ20歳代の割合は高く、30歳代は低くなっている。また、幼児保護者が子どもと「よく行く・ときどき行く」の割合は5年前と比べ低く、特に20歳代の幼児保護者では、他の年代の保護者と比べて行く割合が低い。
- 高知の食を豊かだと「とても思う・思う」の割合は、5年前と比べ、70歳代以外で高くなっている。

#### ⑥農林漁業体験について

- 農林漁業体験の関心については、5年前と比べ、ほぼ横ばいだが、年代によっては関心のある割合が高くなっている。
- 関心がある農林漁業体験については、どの年代も農作業体験の割合が最も高い。

#### ⑦環境への配慮や産地・生産者を意識することについて

- 環境に配慮した農林水産物や食品を選んでいるかについては、「選んでいる」割合が20歳代で最も低いが、全国の同年代と比べると高い。
- 高知産を意識して農林水産物を選んでいるかについては、「選んでいる」割合は約75%である。
- 食品ロスが問題であることを知っているかについては、小中学生とも認知度は9割以上である。成人では全国に比べ認知度が著しく高く、軽減する取組の実施割合も高い。
- 食品ロスを軽減する取組では、5年前と比べ、「食べきれぬ量を購入する」「注文し過ぎない」の割合が低くなっている。

#### ⑧食品の安全性について

- 食中毒予防の知識については、「全て知っている」割合が5年前に比べ高くなっているが依然として低い。
- 「牛レバーや豚肉の生食用としての販売・提供の禁止」のみ、5年前に比べ、知っている割合が低くなっている。

#### ⑨その他

- 災害への備えでは、5年前に比べ、30歳代以外は主食・副食を備蓄している割合が高くなっている。
- 20歳代の保護者が離乳食を学んだ場所としては、インターネット、家族に次いで保育所等の割合が高い。

## (2) 第3次高知市食育推進計画 食育推進に向けた目標値 達成状況

第3次計画においては、食とひとつながり輝く元気なまちの実現に向けて、「豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと 元気!」を推進のスローガンに、「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」の3つの視点のもと、それぞれの目標を掲げ、市民、生産者や市民団体などの食に関わる関係者、行政が協働し取り組んできました。

第3次計画における目標値の達成状況は、次の表のとおりです。

視点	目標	指標	3次計画作成時 (H30年度)	目標値 (R5年度)	現状値 (R5年度)	出典資料	
えらぶ	健康的な食を選ぶ	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	20~30歳代 20~70歳代	29.9% 49.0%	35% 60%	○33.1% 48.7%	高知市食育に関するアンケート調査
	安全安心な食を選ぶ	食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20~70歳代	14.1%	20%	○16.3%	高知市食育に関するアンケート調査
	高知の食を選ぶ	保育所給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合(重量ベース)	保育所	45.3% (H29年度値)	55%	42.3% (R4年度値)	地域食材使用状況調査
学校給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合(食材数ベース)		学校	40.5% (H28年度値)	50%	◎53.8%	教育政策課	
はぐくむ	健康な心身をはぐくむ	朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	幼児 小学生 中学生 20~30歳代	95.5% 89.1% 78.6% 68.3%	98% 95% 90% 75%	◎98.0% ○92.5% ○85.6% ○70.9%	高知市食育に関するアンケート調査
		減塩に気をつけた取組をしている市民の割合	20~70歳代	68.0%	74%	◎76.9%	高知市食育に関するアンケート調査
		ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	20~70歳代	35.8%	45%	○37.6%	高知市食育に関するアンケート調査
		歯肉炎になっていない小中学生の割合	小学生 中学生	74.8% 67.6%	81% 74%	○77.6% ○72.2% (R4年度値)	高知市立学校保健調査
	高知の食(食材・食文化)を大切に	栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む保育所・幼稚園・認定こども園・学校の割合	保育所 幼稚園 認定こども園	93.1% 100% 87.0%	98% 100% 92%	92.0% 60.0% 84.6%	園における食育の取組等に関する調査
		小学校	82.9%	92%	79.1% (R4年度値)	農林水産課	
	高知の自然環境を大切に	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	20~70歳代	98.0%	98%	◎99.0%	高知市食育に関するアンケート調査
つなぐ	一人ひとりが取り組む	「食育」の取組をしている市民の割合	20~70歳代	98.1%	100%	97.3%	高知市食育に関するアンケート調査
	ライフステージ*をつなぐ	食に関する指導計画を作成している保育所・幼稚園・認定こども園の割合	保育所 幼稚園 認定こども園	85.1% 50.0% 73.9%	100% 55% 79%	○94.3% 40.0% ◎88.5%	園における食育の取組等に関する調査
	命をつなぐ	災害時の食の備えを実践している市民の割合	20~70歳代	66.5%	80%	○73.5%	高知市食育に関するアンケート調査
	次世代へつなぐ	高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生の割合	小学生 中学生	88.7% 83.5%	95% 92%	82.7% ○85.4%	高知市食育に関するアンケート調査
		高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと思う市民の割合	20~70歳代	84.1%	90%	84.6%	高知市食育に関するアンケート調査
	社会をつなぐ	地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	小学生 中学生 20~70歳代	52.2% 49.2% 50.1%	62% 60% 60%	○56.4% ○54.6% ○53.4%	高知市食育に関するアンケート調査
1日1回は誰かと一緒に食事をする市民の割合		60~70歳代	54.4%	60%	54.1%	高知市食育に関するアンケート調査	
高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数		「こうち食育やるぞっ」と登録団体数	10団体	15団体	◎15団体	「こうち食育やるぞっ」と登録団体数	

◎: 目標を達成した項目

○: 目標は達成しなかったが、作成時より改善あるいは上昇した項目



## 2 高知市の課題

高知市における課題について、以下のとおり整理しました。

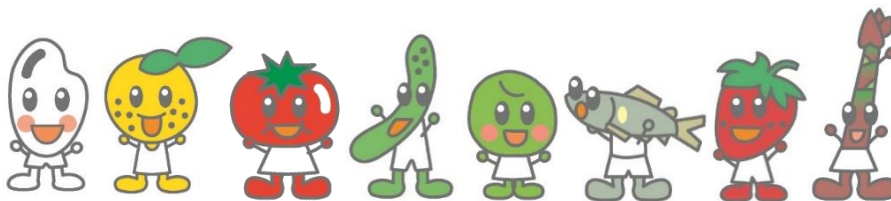
### 【課題】

- 朝食を食べる人の割合は、5年前と比べ幼児、小中学生、20歳代では高くなっているが、50歳代以降はやや低くなっている。【資料編 p.40】
- 幼児、小中学生では、就寝時間が遅いほど朝食を食べる割合が低く、また、朝食を食べない理由としては、小中学生では「時間がない」「食欲がない」の割合が高く、成人では「食べる習慣がない」の割合が高い。【資料編 p.40】
- 若い世代(20~30歳代)では、朝食を食べることや栄養バランスに配慮した食生活を実践している割合が、5年前と比べると改善してきてはいるが、他の年代と比べると依然として低い。【資料編 p.40・41】
- 家族以外の人と食事をする機会は減少しているが、機会があれば参加したいと思う割合は70歳代以外では高くなっている。【資料編 p.44】
- 幼児では「食べ物を大切に」「栄養バランスのとれた食事をする」などを実践している割合が低くなっており、また、幼児保護者では外食や惣菜・弁当を選ぶとき、「好きな料理」を重視する割合が最も高く、5年前と比べ栄養バランスを重視する割合が低くなっている。【資料編 p38・42】
- 伝統的な行事の食べ物を家庭で食べる割合や高知ならではの料理や食材を食べたことのある割合が5年前と比べ、幼児、小学生で低くなっている。【資料編 p46】

若い世代の朝食欠食、栄養バランスの偏りなどの食生活の課題は、将来の健康状態に影響を及ぼすため働きかけが必要です。

小中学生や高齢者の共食については、生活の多様化を踏まえ、誰かと共食できる環境を整えていく必要があります。

子どもに基本的な食習慣づくりや、地域の料理や食材・伝統的な行事の食べ物を伝えていくことは大切であり、地域の関係者が連携し、子どもだけでなく、保護者や若い世代に対しても取組を行うことが必要です。



高知の食育8きょうだい

## 第3章 食育推進の方向性

### 1 基本理念とスローガン

食を大切にすることは、人生を豊かにすることにつながります。「食べることは「生きること」。このことを基本として、市民一人ひとりが生涯にわたり食を大切に、伝えていくことで、市民のこころと身体が健やかに育ち、食とひとつながり輝く元気なまちをめざします。

第4次計画においても、第1次計画から第3次計画の基本的な考え方を引き継ぎ、市民一人ひとりの取組が家族、地域へと広がり、みんなが輝くまちの実現に向け、「豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと 元気!」をスローガンに掲げ、市民、関係者、行政の連携した取組をより推進していきます。



※このイラストは、高知市の食材や食の循環に関係している場所を表示しています。  
イラストから高知の豊かな食環境をイメージしてください。

## 基本理念

食とひとがつながり輝く元気なまち

## スローガン

豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじやんと※ 元気！

※「こじやんと」とは、土佐弁で「とても」「とことん」などの意味を表します。  
ここでは、食材と、それを育てる環境、またその恩恵を受ける人々、その全てがとても元気というイメージで使っています。

## 2 食育推進の視点

基本理念に向かって食育を進めていくために、第1次計画から第3次計画の基本的な考え方を引き継ぎ、3つの視点で取り組んでいきます。

### (1)「えらぶ」：食をえらぶ力を高める

健康の保持増進や食の安全安心確保のために、市民一人ひとりが食に関する知識を習得し、食を選ぶ力を高めることが重要です。また、豊かで多種多様な高知の食を、もっと地元で味わう視点が必要です。

### (2)「はぐくむ」：高知の食をとりまく環境を大切に、健康な心身をはぐくむ

高知の食には恵まれた環境・特色ある文化・歴史があります。このすばらしい高知の食を大切に、さらに発展させることをめざします。また、ライフステージにあわせ、自分自身や家族のこころや身体を健康を育んでいく視点も重要です。

### (3)「つなぐ」：みんなで人の輪をつなぐ、食育の輪をつなぐ、次世代につなぐ

食育の主役は市民一人ひとりです。家庭をはじめ、学校や教育・保育施設\*などでの取組を核として、地域や企業（食品関連を含む全ての企業）等の関係者が連携・協力しながらライフコースアプローチ\*を踏まえた食育に取り組める仕組みを充実させ、食育の輪を広げつなげていく視点や環境への負荷を減らし、持続可能な社会とする視点も必要です。

また、一緒に食を楽しむ、経験するといった人の輪をつなげていくこと、命をつないでいくために災害時の食の備えも大切です。

## 第4章 計画推進のための取組

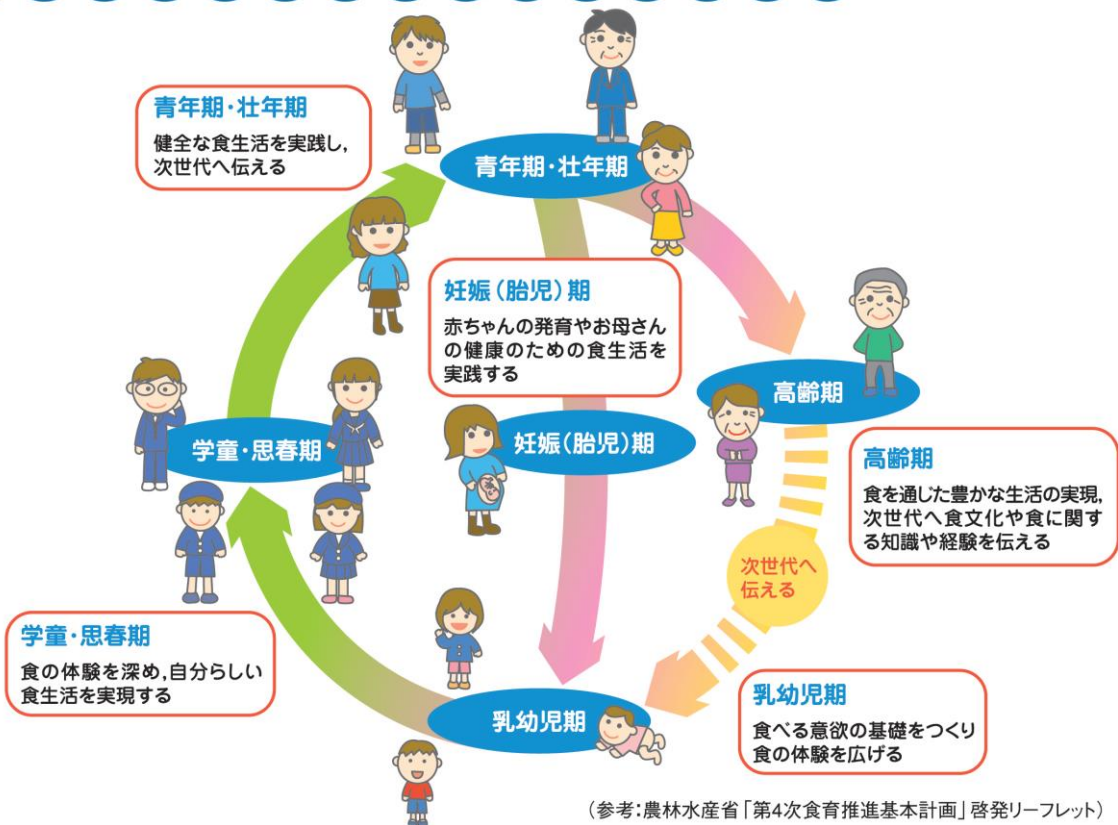
### 1 取組の柱

第4次計画においては、「生涯を通じた健康なこころと身体のための食育」と、「次世代に豊かな食をつなぐための食育」の2つを取組の柱とし、食育を推進します。

食育の推進にあたっては、胎児の健康にも影響を与える妊娠期を含め、乳幼児期から高齢期に至るまで、そのライフステージに応じた食育を進めるとともに、自身の現在の生活習慣が将来の自分の健康に影響していくだけでなく、自身の子ども（次世代）にも影響することを意識するなど、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりについて取り組みます。

また、環境への配慮や農林漁業の活性化、食文化の継承などについても次世代につなぐ取組を推進していきます。

### ライフコースアプローチを踏まえた食育の取組



#### ライフコースアプローチ

胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉え取り組むこと

## (1) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

食は生きていく上で欠かせないものです。生きる力を身につけるためには、何よりも「食」が重要であり、命を大事にし、生涯にわたってこころも身体も健康であるための食育を推進します。

具体的な取組は、以下の6項目です。

- ①基本的な食習慣を身につけるための取組
- ②生活習慣病を予防するための取組
- ③低栄養を予防するための取組
- ④歯と口の健康のための取組
- ⑤安全な食生活を送るための取組
- ⑥災害に備えるための取組

## (2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

食は、ただ空腹を満たすだけではなく、食にまつわる様々なことを大切にすることで、人間形成に大きな影響を及ぼし、人生を豊かにします。環境への配慮、食文化の継承など関係者が連携し、高知の豊かな食を次世代へつなぐ食育を推進します。

具体的な取組は、以下の4項目です。

- ①環境を大切にするための取組
- ②高知の食(食材・食文化)を大切にするための取組
- ③農林漁業への理解を深めるための取組
- ④人の輪をつなげるための取組

## 2 具体的な取組

### (1) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

#### ① 基本的な食習慣を身につけるための取組

基本的な食習慣を身につけることは、生涯にわたる健康に大きく影響します。子どもの頃から規則正しい生活習慣を身につけ、1日3回の食事をとり、生活リズムを整えることが、健康的な生活の基本となります。

子どもから高齢者まで市民一人ひとりが毎日の食事を大切に、規則正しい食生活を心がけるような取組を進めます。



#### <現状と課題>

##### ●朝食からの1日の食事リズムを整える

朝食の大切さについて、幼児、小中学生、若い世代（20～30歳代）を中心に働きかけてきた結果、朝食をほとんど毎日食べる人の割合は幼児や小中学生、若い世代で改善はしてきています。しかしながら、若い世代は他の年代に比べると朝食を食べる割合は、依然として低い状況です。また、50歳代以降についてもその割合はやや減少しており、壮年期以降も見過ごせない状況です。

朝食の欠食の理由としては、アンケートの結果から以下のようなことがわかりました。

- ・小中学生の欠食理由は5年前に比べ「時間がない」の割合が高い
- ・若い世代では「時間がない」「食べる習慣がない」の割合が高い
- ・成人全体でも「食べる習慣がない」の割合が高くなっており、70歳代では特に高い

若い時の朝食欠食は高齢期の習慣へと結びつく可能性があるため、欠食率がさらに悪化しないよう、学童・思春期からの習慣づくりが必要です。また、保護者の生活習慣は子どもへ影響していくため、保護者自身の生活習慣も整えることが重要です。新型コロナウイルス感染症による生活環境の変化もあり、子どもの生活習慣の乱れが大きな課題となっています。小中学生で夜12時以降の就寝が増加しており、特に小学生で増加が顕著です。アンケート結果からも就寝時間が遅いほど、朝食を食べる割合が低い状況であることから、将来の健康への影響を見据え、子どもの頃から基本的な生活習慣を身につけることが必要です。

##### ●主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事の実践

栄養バランスに配慮した食生活の実践では、若い世代では5年前に比べ改善はされているものの、他の年代に比べると依然として低い状況です。また、40歳代以降は改善傾向が見られません。

幼児保護者が子どもの食に関して実践していることでは「栄養バランスのとれた食事をする」割合が低くなっています。また、外食や惣菜・弁当を選ぶとき「栄養バランス」よりも「好きな料理」を重視する割合はどの世代でも高くなっています。幼児保護者の食に対する関心は以前より低下しており、幼児の食生活は、保護者の行動に影響されるため、保護者への意識づけが必要です。

栄養バランスに配慮した食事は、望ましい食生活の基本ですが、暮らしにゆとりがない人ほど「主食・主菜・副菜」をそろえて食べるのが難しい状況です。経済格差が栄養バランスに影響を及ぼしていることから、社会環境なども考慮したアプローチが求められます。



### <今後の方向性>

- ・将来を見据え、子どもの頃から基本的な生活習慣を身につけ、朝食から始まる1日の食事リズムを整えること、栄養バランスに配慮した食事の必要性を保護者や若い世代を中心に働きかけます。
- ・現在の食習慣が次の世代の健康につながることを意識し、基本的な食習慣を整えることの大切さをライフステージに応じて啓発を行います。
- ・基本的な食習慣を身につけるための取組を支援します。
- ・デジタルツールを活用し、朝食や主食・主菜・副菜のそろったバランスのとれた食事の必要性について情報発信を行います。

### <目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	幼児	98.0%	99%
	小学生	92.5%	95%
	中学生	85.6%	90%
	20~70歳代	84.3%	87%
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、 ほぼ毎日食べている市民の割合	幼児保護者	45.5%	60%
	20~30歳代	33.1%	40%
	20~70歳代	48.7%	60%
食に関する指導計画を作成している教育・保育施設の割合	教育・保育施設	90.7%	95%

### <ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
妊娠(胎児)期	○妊娠中の体調、経過に応じた、栄養バランスのとれた食事について助言します	・母子健康手帳交付時の相談・助言 ・パパママ教室での啓発
乳幼児期 (0~5歳)	○乳幼児期が基本的な生活習慣が確立する大切な時期であること、朝食からの1日の生活リズムについて啓発します ○栄養バランスのとれた食事をとることの大切さについて啓発します	・幼児健診、妊産婦・子育て相談、離乳食教室などでの啓発 ・教育・保育施設などでの食に関する指導計画に沿った食育活動の実施 ・園だより、給食だより、ほけんだよりなどを通じた保護者への啓発 ・イベントやお便りでの保育所給食の紹介
学童・思春期 (6~17歳)	○食品の栄養的な特徴や栄養バランスのとれた食事をとることの大切さについて啓発します ○早寝早起き朝ごはん、規則正しい生活リズムの大切さについて啓発します	・学校給食を生きた教材として活用 ・9年間の食育プログラムを活用した食に関する指導 ・食育だより、給食だより、保健だよりなどを通じた啓発 ・食生活改善推進員*による講習会
青年期 (18~39歳)	○1日3食食べて、規則正しい生活を心がけること大切さを啓発します ○栄養バランスのとれた食事をとることの必要性を啓発します	・食生活改善推進員による啓発活動 ・健康講座(出前講座)
壮年期 (40~64歳)		
高齢期 (65歳~)		
全世代共通	○基本的な食習慣を身につける機会をつくりま す	・基本的な食習慣が身につくような地域での取組

## (1) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

### ② 生活習慣病を予防するための取組

食事の偏りや早食いといった日々の食習慣の乱れが、生活習慣病発症の大きな要因となっています。また、生活習慣病は自覚症状がなく進行していく特徴があるため、生涯を通じて健康的な食への意識を高め、生活習慣病の発症・重症化を予防できるよう関連機関と連携し取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●生活習慣病予防のための食生活の実践

「生活習慣病の予防や改善のために適正体重や減塩に気をつけた食生活」を実践している割合は、全国よりも低い一方で、減塩については、機会を捉えて啓発を実施してきたことから、減塩に気をつけた取組をしている割合は増加しています。

健康のために成人が1日に必要とする野菜の量(350g)について知っている人の割合は、男性が38.4%、女性が49.6%でした(令和5年高知市健康づくりアンケート)。

また、生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合は、男女とも20歳代は6年前に比べ減少しているものの、男性では40~60歳代で、女性では50~60歳代で増加しています(令和5年高知市健康づくりアンケート)。

##### ●かむことの大切さの推進

ゆっくりよくかんで食べている人の割合は、5年前に比べ、成人全体では増加しているものの全国に比べると低くなっています。ゆっくりよくかんで食べることの効果について、引き続き啓発していくことが必要です。

よくかんで食べることは、大切な食習慣として子どもの頃からの意識づけが重要です。学校給食における食の指導において意識づけを行い、小中学生で「ゆっくりよくかんで食べている割合は増加していますが、小中学生の日常において、ゆっくりよくかんで食べることへの意識はまだまだ低い状況です。

#### <今後の方向性>

- ・健康づくりや生活習慣病の予防・疾病管理のために、適正体重の維持や減塩、バランスのよい食事、野菜の摂取、適正飲酒に気をつけた食生活について、青年・壮年期に対し、啓発を強化して行います。
- ・生活習慣病予防に関する協議会などの関係機関との連携、協働により、市民の生活習慣の改善に向けた取組を進めていきます。
- ・ゆっくりよくかんで食べることの効果について啓発を強化して行います。





<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、 ほぼ毎日食べている市民の割合	20~70歳代	48.7%	60%
ふだんから適正体重の維持や減塩等に関心を持った取組を している市民の割合	20~70歳代	76.9%	80%
ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	20~70歳代	37.6%	45%

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
妊娠(胎児)期	○妊娠期の適切な体重増加や妊婦のやせによる胎児の低栄養が将来の生活習慣病に影響することについて啓発します	・母子健康手帳交付時の相談・助言 ・パパママ教室での啓発
乳幼児期 (0~5歳)	○栄養バランスのとれた食事をとることの大切さについて啓発します ○ゆっくりよくかんで食べることの大切さについて啓発します	・幼児健診、妊産婦・子育て相談、離乳食教室などでの啓発 ・園だより、給食だより、ほけんだよりを通じた保護者への啓発 ・給食を通じたよくかむことの啓発
学童・思春期 (6~17歳)	○学童・思春期の生活習慣が壮年期の生活習慣病につながるについて啓発します ○栄養バランスのとれた食事をとることの大切さについて啓発します ○ゆっくりよくかんで食べることの大切さについて啓発します	・学校給食を生きた教材として活用 ・9年間の食育プログラムを活用した食に関する指導 ・食育だより、給食だより、保健だよりを通じた指導 ・食生活改善推進員による啓発活動
青年期 (18~39歳)	○市民が自分の健康状態を知ること、生活習慣病の発症・重症化を予防できるよう啓発をすすめます ○栄養バランスのとれた食事とること、減塩、野菜の摂取の必要性、適正飲酒などについて啓発します	・幼児健診での保護者への啓発 ・女性健診結果説明会 ・食生活改善推進員による啓発活動 ・健康講座(出前講座) ・健康相談(出張相談)
壮年期 (40~64歳)	○ゆっくりよくかんで食べることが、肥満を防ぎ、生活習慣病の予防につながることを啓発します	・いきいき健康チャレンジ関連イベントでの啓発 ・生活習慣病予防に関する協議会
高齢期 (65歳~)	○栄養バランスのとれた食事をとること、減塩、野菜の摂取などについて啓発します ○よくかんで食べることが全身の健康維持につながることを啓発します	・栄養ケア・ステーション*による栄養食生活相談



【食生活改善推進員による講習会(バランス献立)】



【イベントでの啓発】

## (I) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

### ③ 低栄養を予防するための取組

低栄養が及ぼす健康問題が若い女性や高齢者において重要な課題です。若い女性の栄養状態は自身の健康状態のみだけでなく、次世代の健康につながります。また、高齢者では食事内容の偏りや孤食が低栄養につながりやすいことから、食の機会を通じた集いの場をつくり、つなぐなどが大切です。

市民が低栄養について知識や理解を深め、生涯にわたって健全な食生活の実践ができるよう取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●女性の低栄養予防

女性の低栄養は、「やせ」を招き、女性ホルモンの分泌低下などから、さまざまな健康障害を引き起こすと言われています。また、妊婦のやせは胎児の低栄養につながり、低出生体重児の出産を招き、将来的にその子の生活習慣病を発症するリスクが高くなるとも言われています。

若い世代の女性では、栄養バランスに配慮した食生活の実践割合は5年前に比べ高く、また、全国と比べても高くなっていますが、他の世代と比べると依然として低い状況です。やせ願望が強くなる思春期から、自らの行動を選択できるように、標準体重の維持、朝食摂取、バランスのとれた食事をとることの重要性について、学校や健診などで正しい情報を提供する機会を増やしていくことも必要です。

##### ●高齢期の低栄養予防

高齢期になると運動量の低下や食事量の減少から、必要な栄養をとることが難しくなり、低栄養になる傾向があります。

60～70歳代で、朝食をほとんど毎日食べる人の割合が、5年前は9割を超えていましたが、今回減少していました。欠食することで、必要な栄養がとり切れないと、低栄養状態になりやすくなるため、朝食を食べることの重要性について啓発することが必要です。

また、フレイル\*対策としても、食事で肉や魚などのたんぱく質を不足させないことが重要です。年齢が高くなるにつれ食べる量が少なくなるため、低栄養のリスクが高くなります。そのため、いろいろな食品からたんぱく質をとる必要がありますが、特に摂取量が少ない肉類を増やす必要があります。まずは、既存のいきいき百歳体操会場等の集いの場で栄養改善の取組を一体的に実施し、食習慣の改善を働きかけることが重要です。

また、壮年期に対しては、生活習慣病予防のための食生活を実践することと併せて、高齢期に低栄養にならないよう1日3食、バランスよく食べることを伝えていくことも必要です。

#### <今後の方向性>

- ・低栄養が及ぼす健康影響について正しい情報の発信を行います。
- ・若い女性の低栄養が、次世代の健康状態に影響を及ぼすことについて啓発を行っていきます。
- ・高齢期に向けて壮年期へも、低栄養を予防するための食生活について啓発を行っていきます。
- ・介護予防活動の場を活用し、高齢期の低栄養予防について普及啓発や10食品群チェックシート\*を活用した栄養改善活動を行います。

<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、 ほぼ毎日食べている市民の割合	20～30歳代 (女性)	36.7%	45%
	20～70歳代	48.7%	60%
朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	20～30歳代 (女性)	74.5%	77%
	20～70歳代	84.3%	87%
ほぼ毎日、肉類を食べている市民の割合	60～70歳代	42.2%	50%

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
妊娠(胎児)期	○妊婦のやせによる胎児の低栄養が将来の生活習慣病に影響することについて啓発します	・母子健康手帳交付時の相談・助言 ・パパママ教室での啓発
学童・思春期 (6～17歳)	○過度のダイエットが身体に及ぼす影響や標準体重の維持、朝食摂取、栄養バランスのとれた食事をとることについて啓発します	・学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導の推進 ・教科や総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、中学生に対する食に関する指導の推進 ・食育だより、給食だより、保健だよりなどを通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発
青年期 (18～39歳)	○標準体重の維持、朝食摂取、栄養バランスのとれた食事をとることの必要性などについて啓発します	・女性健診結果説明会 ・女性健診会場での食生活改善推進員による若い世代への啓発
壮年期 (40～64歳)	○栄養バランスのとれた食事をとることの必要性について啓発します ○高齢期を見据えた低栄養予防について、正しい知識の普及や情報提供を行います	・健康講座(出前講座)
高齢期 (65歳～)	○高齢期の低栄養予防について、正しい知識を普及します ○10食品群チェックシートを用いた栄養改善講座を実施します	・健康講座(出前講座) ・食生活改善推進員による講習会 ・リハビリキッチン*の開催 ・住民主体の介護予防活動の推進(既存のいきいき百歳体操会場等での栄養改善活動の普及啓発、10食品群チェックシートの取組)

高知市では高齢期の栄養改善活動のために10食品群/食事様式チェックシートチャレンジに取り組んでいます

目標：1日の合計は「7」以上になるようめざしましょう。  
使い方：各食品群は毎日一口でも食べていたら○をつけて下さい。



【女性健診会場での食生活改善推進員による啓発】

10食品群	洋食グループ		雑穀	日本食グループ		植物食品グループ		合計 ○を記入します		
	肉類	卵	油類	牛乳・乳製品	魚介類	大豆・豆製品	緑黄色野菜		果物	海藻類
食品の例	鶏肉、豚肉、牛肉、魚、肉類加工品	卵、卵加工品	植物油、動物性油脂	牛乳、ヨーグルト、乳製品加工品	魚、魚介類加工品	大豆、豆、大豆加工品	野菜	果物	海藻類	芋類
1日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
合計										

【10食品群チェックシート】

## (I) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

### ④ 歯と口の健康のための取組

歯と口の健康は「食べる」機能を果たすために欠かせないものであり、生活の質に大きく寄与する食育の基礎となるものです。

歯と口の健康のためには歯科疾患の予防が不可欠で、子どもの頃に獲得した口腔機能を生涯にわたり維持、向上していくことが重要です。生涯を通じて歯と口の健康を保ち、「かむ」「味わう」等の「食べ方」を意識した取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●歯科疾患の予防

小学生で歯肉炎になっていない児童の割合はやや増加しているものの目標は達成できていません。中学生の歯肉炎になっていない生徒の割合は増加し目標に近づいています（令和4年度高知市立学校保健調査）。

定期的に歯科受診している人の割合は、40歳代以外は5年前に比べどの年代も増加しています。

歯科疾患の予防のためには、規則正しい食習慣と、子どもの頃からかかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科受診をするよう働きかけていく必要があります。

##### ●口腔機能の獲得・維持・向上

3歳児の食べ方の困りごとは、減少している項目は多かったものの、全国に比べてまだまだ課題はあり、「食べるのに時間がかかる」は増加しています（令和5年高知市健康づくりアンケート）。口を閉じて食べることや前歯でのかじり取りなど口の機能が育っていない幼児や、口呼吸の児童が増えているため、乳幼児期からの口腔機能の獲得と育成が必要です。

ゆっくりよくかんで食べている人の割合は、5年前に比べて小中学生は増加していますが、30歳代、40歳代は減少しています。

口の体操を実施している人の割合は70歳代が13.7%と最も多く、ついで小学生が11%とまだまだ実施している者は少ない状況です。

新型コロナウイルス感染症の影響で、マスク生活が長期化したことによる口腔機能低下に対する取組が必要です。

#### <今後の方向性>

- ・歯肉炎予防の観点からも、幼児期、学童期からよくかんで食べること、口呼吸等の悪習慣を改善することの必要性の啓発を行います。
- ・「かかりつけ歯科医」を持ち、1年に1回以上歯科受診することの啓発を継続して行います。
- ・幼児期・学童期を中心に、口の機能や口呼吸改善のために、ぶくぶくうがいの習慣化や口の体操を普及します。
- ・口腔機能の獲得のために、子どもの口の発達に応じた食べ方の啓発や、教育・保育施設等の関係職員への働きかけを行います。
- ・よくかんで食べることが、歯・口の健康や生活習慣病予防と関係することの啓発を継続して行います。
- ・何でもかんで食べられる口腔機能の維持、向上のため、壮年期からオーラルフレイル\*予防を啓発します。

<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	20~70歳代	37.6%	45%
歯肉炎になっていない小中学生の割合	小学生	77.6%	81%
	中学生	72.2%	75%
		(R4年度値)	
定期的に歯科医院を受診している市民の割合	20~70歳代	42.7%	45%

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
妊娠(胎児)期	○妊娠中の歯周病予防の必要性について啓発します	・母子健康手帳交付時の相談・助言 ・パパママ教室での普及啓発 ・妊婦歯科健診をきっかけとした、定期的な歯科受診の働きかけ
乳幼児期 (0~5歳)	○乳児期に発達段階に応じた食べ方、口腔機能を獲得することの重要性について啓発します ○幼児期から前歯でのかじりとり、奥歯でよくかんで食べることで、ぶくぶくうがいの大切さについて啓発します ○口の機能や口呼吸改善のために、口の体操の普及に取り組みます ○かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科受診の働きかけを行います	・離乳食教室や妊産婦・子育て相談、育児講座などでの啓発 ・幼児健診 ・教育・保育施設などへの普及啓発、職員向けの研修会 ・お便り等を通じた保護者への普及啓発、給食を通じたかむことの啓発 ・口の発達段階に応じたメニューや調理形態に配慮した給食の提供
学童・思春期 (6~17歳)	○学童・思春期の歯肉炎を予防するため、健康教育を実施し、口や歯の衛生習慣の確立、よくかんで食べることで、口呼吸予防について啓発します ○かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科受診の働きかけを行います	・学校給食を生きた教材として活用 ・食育だより、給食だより、保健だよりなどを通じた啓発 ・口からはじめる食育推進事業などをきっかけとした学校の歯科保健意識の向上 ・児童クラブでの歯と口の健康講座の実施
青年期 (18~39歳)	○かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科受診の働きかけを行います	・女性健診(青年期のみ) ・健康講座(出前講座) ・特定健診結果説明会
壮年期 (40~64歳)	○マスク生活による口の衰えについての周知と、よくかんで食べることで、口腔機能の維持・向上の必要性を啓発します	
高齢期 (65歳~)	○かかりつけ歯科医を持ち、定期的な歯科受診の働きかけを行います ○オーラルフレイル予防の大切さについて啓発します	・健康講座(出前講座) ・介護予防事業と連携した普及啓発 ・住民主体の介護予防活動の普及啓発と既存の体操会場への支援



【学校での指導(口からはじめる食育推進事業)】

## (I) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

### ⑤ 安全な食生活を送るための取組

市民が安全で健康的な食生活を送るためには、食の安全に関する情報や食中毒予防に関する知識を習得し、自らの判断で、より安全な食品を選択して、衛生的に取り扱うことが必要です。生涯を通じて健康を損なうことがないように、安全な食生活を送るための取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●衛生習慣の啓発

安全な食生活を送る基本として、学校や教育・保育施設などでは、食事の前に手洗い指導を行うなど、正しい手洗いの習慣が身につくよう継続的に指導を行っています。感染症予防の視点から、手洗いの大切さは意識づけができていますが、正しい手洗いを習慣化させるためには、継続的な啓発が必要です。

##### ●食品衛生知識の啓発と情報発信

食中毒予防の具体策のうち、鶏肉の生食の危険性、焼肉のトングと箸の使い分け、加熱調理の徹底などについては、正しい知識を持つ市民の割合は高くなりましたが、「牛のレバー（肝臓）を生食用として販売・提供することが禁止されている」ことを知っている市民の割合は低くなっており、引き続き啓発していく必要があります。

また、食品の安全性に関する基礎的な知識があると思っている市民と、実際に食中毒予防の知識がある市民の割合には隔たりがあり、市民が食の安全について正しい知識を身につけて実践することができるように、食中毒予防の3原則\*や食品表示について市民が触れやすいかたちでの適切な情報の発信が必要です。

##### ●食の安全に関する情報提供

市民が安全で健康的な食生活を実践するためには、科学的知見に基づき、合理的な判断を行う力が必要です。市民が食の安全についての関心を持ち、正しい知識を得て活用できるよう、リスクコミュニケーション\*などの意見交換の機会を設けることや、正しい情報の提供を行うことが必要です。

#### <今後の方向性>

- ・子どもの頃から生活における手洗い等の衛生習慣を意識づけます。
- ・食中毒予防の3原則の啓発を行います。
- ・市民が健全な食生活を実践するために、食中毒予防はもとより、食品の安全性に関する基礎的な知識を持つことができるよう、正しい知識の普及啓発に努めます。
- ・食品等に起因する衛生上の危害の発生を防止するため、食品関連事業者に対して正しい情報の提供を行います。
- ・食品関連事業者自身が取り組むHACCP（ハサップ）\*に沿った衛生管理や食品表示について指導助言を行います。



<目標(指標)>

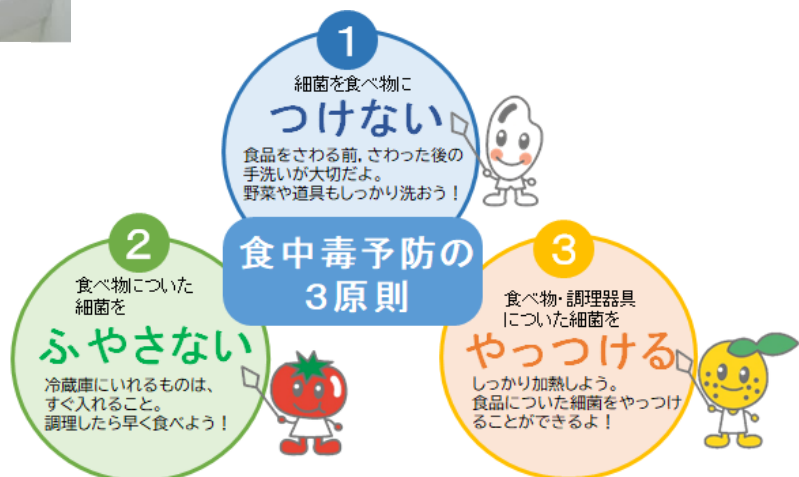
目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20~70歳代	16.3%	25%
食品の安全性に関する基礎的な知識があると思っている市民の割合	20~70歳代	62.7%	70%

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
乳幼児期 (0~5歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いの衛生習慣を意識づけます</li> <li>○乳幼児の食品による誤嚥・窒息事故防止について啓発します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育施設などでの生活の中で手洗いななどの衛生習慣を身につけるための啓発</li> <li>・手洗い指導</li> <li>・お便り等を通じた保護者への啓発</li> </ul>
学童・思春期 (6~17歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いの習慣化に向けた啓発をします</li> <li>○食中毒予防の3原則について啓発します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を生きた教材として活用</li> <li>・食育だより, 給食だより, 保健だよりなどを通じた啓発</li> <li>・手洗い指導</li> </ul>
青年期 (18~39歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手洗いの大切さについて啓発します</li> <li>○基本的な衛生習慣についての啓発をします</li> <li>○食中毒予防の3原則の啓発をします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンピロバクター, 腸管出血性大腸菌, ノロウイルス, アニサキスなど, 発生件数の多い食中毒について具体的な予防策の情報発信</li> <li>・リスクコミュニケーションの開催</li> <li>・健康講座</li> </ul>
壮年期 (40~64歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食の安全に関する基礎的な知識についての啓発をします</li> </ul>	
高齢期 (65歳~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の食品による誤嚥・窒息事故防止について啓発をします</li> </ul>	
全世代共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食の安全に関する正しい情報について発信をします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報やSNSなどを活用した情報提供</li> </ul>



【正しい手洗方法の啓発】



## (I) 生涯を通じた健康なこころと身体のための食育

### ⑥ 災害に備えるための取組

南海トラフ地震や近年多発する風水害など、非常時には食生活面で大きな影響を受け、健康を害することになりかねません。災害に直面しても生き抜く力を、日頃から身につけておくことが大切です。

備蓄食の必要性の理解、災害時にも体調不良とならないような内容を意識した備蓄、子どもの頃から災害に備える知識や理解を深めるための取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●災害時の食の備え

災害時の食の備えをしている人の割合は、5年前より増加しており、73.5%の人が何らかの備蓄をしています。さらに、主食・副食を備蓄している人の割合も増加し、約5割となっています。新型コロナウイルス感染症による自宅療養などをきっかけに、家庭内備蓄の意識が高くなったと考えられます。備蓄の必要性については、1週間分の家庭内備蓄のチラシを作成し、機会を捉え啓発しています。

災害時はいつもと違う食生活を送ることで、心身の健康を害することがあります。災害時でもバランスよく食事をとるための知識や技術の普及について、関係組織と連携し取り組むことが大切です。

##### ●災害時の口腔ケアの必要性

災害時には慣れない環境でストレスを受け、唾液が出にくくなることがあります。また、水や口腔ケア用品も不足するため、口の中を清潔に保つことが難しくなり、むし歯や歯周病が悪化する方や、誤嚥性肺炎\*を起こす方がいると言われていています。唾液には口の中を清潔に保つ働きがあるため、日頃からしっかりよくかんで食べる習慣をつけ、健康な歯と口を保つことが重要です。

災害時の口腔ケアの必要性や方法、備えておきたい口腔ケア用品の普及について取り組むことが必要です。

##### ●災害時を想定した取組

学校では、防災教育の一つとして、9月に防災給食を実施し、災害時の食や災害に備えて準備しておきたいことなどを学ぶ機会としています。防災給食では小学校の給食調理室で回転釜を使って炊飯し、給食で提供するなどの取組を継続して行っており、災害に備えた意識を高める機会としています。

保育所などでも、備蓄を給食として提供し、提供方法や味に慣れておくなど、日頃から災害に備えた取組を行っていくことが必要です。

また、食のボランティアである食生活改善推進員は災害時の食の備えの重要性や災害時でも使える調理方法について学習し、地域での防災訓練に参加するなどの取組を行っています。

#### <今後の方向性>

- ・備蓄の必要性について、引き続き啓発を行います。
- ・飲料だけでなく主食・副食など備えが充実するよう、引き続き、備蓄食の内容について啓発を行います。
- ・災害時におけるバランスのとれた食事のとり方について、平時から啓発を行います。
- ・災害時の口腔ケアの必要性と、備えておきたい口腔ケア用品について啓発を行います。
- ・子どもの頃から「災害に備える」知識や理解を深めるための啓発を行います。
- ・地域のボランティアなどによる、災害時を想定した実践での調理実習の強化を図ります。



# <目標 (指標)>

目標 (指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
災害時の食の備えを実践している市民の割合	20~70 歳代	73.5%	80%

# <ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
妊娠 (胎児) 期	○必要な非常用物品の啓発を行います	・母子手帳交付時に資料配布
乳幼児期 (0~5歳)	○家庭内備蓄の重要性について啓発します ○備蓄食の確保や提供など、災害時に備えた取組を実施します	・お便りなどを通じた保護者への啓発 ・教育・保育施設などにおける備蓄食の確保 ・給食での備蓄食の提供
学童・思春期 (6~17歳)	○防災学習を実施し、備蓄食の確保や確認、災害時の備えについて啓発します ○災害時を想定した、実践形式での調理実習を実施します	・学校給食を生きた教材として活用 ・防災学習の実施 ・食育だより、給食だより、保健だよりなどを通じた啓発 ・指導資料や放送資料等の活用
青年期 (18~39歳)	○主食・副食のそろった備蓄食や備蓄方法など、災害時の食の備えの重要性や災害時でも使える調理方法について啓発します ○災害時に体調不良とならないよう、日頃からの健康管理の大切さについて啓発します ○災害時の口腔ケアの必要性について啓発します	・出前講座・健康相談で備蓄や災害時の口腔ケアについて啓発 ・食生活改善推進員の地域の防災訓練への参加、イベントでの啓発 ・リーフレット配布、ラジオ, SNSを通じて啓発
壮年期 (40~64歳)		
高齢期 (65歳~)		
全世代共通	○災害時の食品衛生について啓発します	・広報や SNSなどを活用した情報提供

緊急時に 備えてあしん! 家庭内備蓄

家庭内の備蓄品は、お盆やお正月などの自然災害にだけでなく、自宅の漏水や停電、燃焼器具での異常発生にも役に立ちます。自分や家族を守るため、いざという時に備えて、食品・水などを備蓄しておきましょう。

大人一人あたりの「1週間分の食品」(目安量)

家庭での備蓄例 (大人一人あたり 1週間分) 各一割に災害用物資 (食品類) を加えておきましょう。

食品名	目安量	食品名	目安量
パルコにたん	10パック	かじりかき(小麦、いちご)	1箱
おそば	1箱	お好み焼き(冷凍)	1箱
お味噌	1箱	調味(トナリ)	1箱
五香粉	1袋	おのこ(小麦)	1袋
お豆腐	2箱	おのこ(小麦)	1袋
お味噌汁の素	2箱	おのこ(小麦)	1袋
おしょうゆ	1箱	おのこ(小麦)	1袋
おしょうゆ	1箱	おのこ(小麦)	1袋
おしょうゆ	1箱	おのこ(小麦)	1袋
おしょうゆ	1箱	おのこ(小麦)	1袋



【災害時を想定し、ポリ袋を利用した調理実習】



【学校で回転釜を使用しての炊飯】

【家庭内備蓄のチラシ】

## (2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

### ① 環境を大切にするための取組

食は自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々の様々な活動に支えられています。

生産から消費までの一連の食の循環を理解し、「もったいない」という意識を持ち、食べ物を大切にすることは、環境を大切にすることにつながります。

持続可能な社会をめざし、食品ロス\*削減など、環境に配慮した取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●食品ロス削減

学校や教育・保育施設などでは、給食を残さない取組や教科などでの学習、保護者へのお便りを通じた啓発を行ってきました。また、総合的な学習の時間などを活用し、食品ロスをテーマとした環境学習やごみ出前授業を実施していることから、「食品ロスの問題について知っている」、「食べ残しをしないように心がけている」と回答した小中学生の割合は共に9割以上となっており、食品ロスの問題意識を持った上で、食品ロスを軽減する行動ができています。

成人でも食品ロスが問題となっていることについて9割以上が知っているという回答しており、5年前の調査に引き続き、食品ロスの問題は多くの世代で認識されています。

食品ロスを軽減する取組については、ほぼ全ての項目において、取り組んでいる人の割合が全国に比べ高いことから、他地域と比較してもより取組が浸透しています。

飲食店においては、「食べきり協力店登録制度」や「忘年会・新年会はおいしく残さず食べきろう全国共同キャンペーン」を実施しています。

引き続き、環境学習や飲食店などへの啓発活動を推進することにより、将来においても食品ロスへの高い関心や食品ロスを軽減する取組の実践につなげていく必要があります。

#### <今後の方向性>

- ・学校教育活動を通じて、食品ロスや食品リサイクル\*等について興味や関心を育てます。
- ・食品ロスの軽減に関する啓発活動を継続して行います。
- ・食品リサイクルを推進します。



【食べきり協力店ステッカー】



【キャンペーンチラシ】

<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合※	20～70歳代	96.1%	99%

※第4次計画より「食品ロスが問題であることを知っており、かつ削減に取り組む人」の割合としています。

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
乳幼児期 (0～5歳)	○好き嫌いなく食べることや、食べ物を大切にすることを通じて食に対する感謝の気持ちを育みます	・給食を通じて食べ物を残すことを「もったいない」と思う気持ちを育む声かけ ・食品ロスを減らす取組について園児や保護者への啓発
学童・思春期 (6～17歳)	○食品ロスや環境問題について啓発します	・学校給食を生きた教材として活用 ・生活科, 総合的な学習の時間, 特別活動などを活用した食に関する指導 ・食育だより, 給食だよりなどを通じた啓発 ・食品ロスに関するごみ出前授業 ・環境学習 ・食品ロスをテーマとしたイベントの実施
青年期 (18～39歳)	○市民, 事業所, 行政が一体となった, 食べきり運動を推進します	・食べきり協力店登録制度 ・忘年会・新年会はおいしく残さず食べきろう！ 全国共同キャンペーン ・食品ロスに関するごみ出前講座 ・食品ロスをテーマとしたイベントの実施
壮年期 (40～64歳)	○食品ロスの問題について啓発します	
高齢期 (65歳～)		



【出前講座の様子(環境選隊クリーンレンジャー)】

## (2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

### ② 高知の食（食材・食文化）を大切にするための取組

高知は、豊かな自然環境に育まれた食材に恵まれ、高知ならではの食文化があります。次世代へ伝えていくためには、改めてその良さ、高知の食の豊かさを知ることが大切です。

高知ならではの食材・郷土料理など、高知の食文化に理解を深めるとともに、お箸の持ち方など食事の作法や日本ならではの食文化なども含め、次世代へ継承する取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●高知ならではの料理や食材

高知ならではの料理や食材を「食べたことがある」と回答した中学生の割合は5年前より増加しましたが、小学生では若干減少しています。その背景には中学校給食が開始され、高知の食を給食で提供している効果があったと考えられる一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、食事中の会話が制限されたことから、会話の中で理解を深める機会が少なくなったことなどがあげられます。

生きた教材である給食において地域の食材を提供することは、高知の食材を知る絶好の機会ですが、食材費が高騰しており、地場産物の活用を優先することが難しい状況です。地場産物を給食などで利用するためには、供給可能な体制の整備が求められます。

また、直販所や量販店における産直市などは、日常の生活の中で高知の食材に触れる身近な場所になっています。併せて、イベントなどを通じて、高知の食材について多くの世代に知ってもらうことができるよう、継続して情報発信していくことが必要です。

##### ●街路市の活性化

高知の食の宝庫である街路市は、新鮮で安価な商品の提供により消費経済に貢献するとともに、市民にとって郷愁や憩い、心の安らぎを与える買い物広場として、また観光客にとって高知の食と人となりに触れることのできる場所として欠かせない存在です。

一方、小学校の校外実習や高校・大学生による街路市での出店もあり、若い世代の訪問は増加傾向にあります。また、SNSなどでも街路市の情報発信を行うことで、県内外の人に関心をもってもらえる機会となっています。

##### ●食文化の伝承

伝統食を家で食べることや郷土食を食べたことがある幼児の割合が5年前に比べ低くなっています。また、伝統食を家で食べたことがある割合は若い世代（20～30歳代）でも大きく減少しています。核家族化や家族の在り方の多様化が進み、食文化を次世代へ伝える機会が減少していることが考えられます。

地域の風土をいかした食文化の保護・継承は、地域活性化に寄与することが期待されます。関係者が連携し、子どもだけでなく、保護者や若い世代に対しても取組を行うことが必要です。

#### <今後の方向性>

- ・学校や教育・保育施設などの給食での地場産物の活用を推進します。
- ・高知の農林水産物に関する情報発信等に関係機関・団体が連携して取り組みます。
- ・地産地消推進のため、直販所などの活動を支援します。
- ・安全・安心な地元の農林水産物を直販所や街路市などで購入できる体制整備を支援するとともに、消費者への情報発信にも努めます。
- ・市内外の方に楽しみ・購入してもらえる街路市をめざします。
- ・学校や教育・保育施設などの給食に高知ならではの食材や郷土料理を取り入れ、子どもたちに高知の食の良さ、豊かさを伝えていきます。
- ・関係者と連携し、高知ならではの食を楽しむ機会を通じて、高知ならではの食文化（皿鉢料理など）の活性化や継承に取り組みます。

<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
高知の食を豊かだと思ふ市民の割合	20~70歳代	86.7%	93%
高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生の割合	小学生	82.7%	95%
	中学生	85.4%	95%
高知ならではの料理や食材, 食べ方などを, 次世代に伝えていくことを大切だと思ふ市民の割合	20~70歳代	84.6%	90%
学校給食で使用する食材のうち, 地場産物を活用する割合(食材数ベース)	学校	53.8%	50%以上

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
乳幼児期 (0~5歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○給食で高知ならではの食材や郷土料理を提供することで, 食や食文化に関する経験ができる機会をつくります</li> <li>○お箸の正しい持ち方などを身につけます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産物を取り入れた給食の提供</li> <li>・給食を媒体とした食育活動(行事食, 高知ならではの料理や食材の伝承, 食事のマナー)の実施</li> <li>・給食だより等での周知, 啓発・保護者への地場産物の紹介</li> </ul>
学童・思春期 (6~17歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校給食で地場産物や郷土料理, 行事食を取り入れた献立を実施します</li> <li>○郷土料理や行事食, 高知ならではの食文化について啓発します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知ならではの食材や郷土料理を取り入れた献立, 「高知の食べものいっぱい入っちゃう日」の実施</li> <li>・地場産物に関する指導資料の活用</li> <li>・9年間の食育プログラムを活用した食に関する指導</li> <li>・食育体験学習の実施</li> <li>・食育実践発表会・親子料理教室の開催</li> <li>・食生活改善推進員の協力による郷土料理講習会等の実施</li> <li>・学校給食用食材生産支援事業</li> </ul>
青年期 (18~39歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地場産物や郷土料理, 行事食に関する知識を身につけ, 日々の食生活に取り入れることができるよう啓発します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活改善推進員の協力による郷土料理講習会等の実施</li> <li>・直販所などの体制整備支援</li> </ul>
壮年期 (40~64歳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地場産物や郷土料理, 行事食に関する知識を身につけ, 日々の食生活に取り入れることができるよう啓発します</li> </ul>	
高齢期 (65歳~)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土料理や行事食などを次世代に継承することができるよう取り組みます</li> </ul>	
全世代共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○街路市や地場産物, 郷土料理について情報発信を行います</li> <li>○高知ならではの食を楽しむ機会づくりや食文化の継承に努めます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを活用した街路市の情報発信</li> <li>・高知の農林水産物に関する情報発信</li> <li>・土佐の「おきやく」, 土佐の豊穰祭, 南国土佐皿鉢祭の開催</li> </ul>



【日曜市の様子】



【学校の独自献立(皿鉢給食)】

## (2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

### ③ 農林漁業への理解を深めるための取組

農林漁業に関心を持つことや体験することは、食に対する感謝の念を育み、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや食に関わる人々の様々な活動に支えられていることなどを理解する上で重要です。

市民が、高知市の農林漁業や、生産されている農林水産物を理解し、農林漁業体験の機会等を通じて、食に関する関心や理解を深める取組を進めます。

#### <現状と課題>

##### ●農林漁業体験の推進

農林漁業体験への関心については、5年前と比べほぼ横ばいですが、地域で開設されている市民農園のほか、地域の農林漁業従事者や団体が行う農林漁業体験、食育活動については、市民の関心も高く農林漁業への理解の醸成などの役割を果たしています。

農林漁業体験をする小中学生の割合は、中学生で増加しましたが、小学生では減少しています。今後は栽培活動を含む農林漁業体験に取り組む小学校・中学校の割合を増やし、農林漁業への興味関心を高めていくことが必要です。

しかし、体験を行う場所や指導者の確保が難しく、実施が困難な学校もあります。希望する学校が体験をスムーズに行うことができるような体制を整える必要があります。

##### ●農林漁業への理解促進

農林漁業体験と合わせて、農業協同組合や市などによる市民農園についても農業に触れ合う場の一つとなっており、農業について理解を促す機会となっています。

また、イベントなどを通じて、高知の農林水産物に関する情報発信を行うことで本市の農林漁業への理解に繋がっており、引き続き機会を捉えて情報を発信していくことが必要です。

#### <今後の方向性>

- ・教育活動を通じ、学校の畑や花壇を活用した栽培活動や課外活動での農林漁業体験学習の取組を支援します。
- ・イベントや体験学習を通じて、生産者と消費者の交流を促す取組を支援します。
- ・栽培活動を通じ、農作物への興味や関心を育てます。
- ・地域で行われる農林漁業体験や酪農教育ファーム認証牧場で行われる酪農体験学習を関係機関・団体が連携して、支援を行います。
- ・農業協同組合や市などによる市民農園の管理・運営により、市民の農業への理解の醸成に取り組みます。
- ・高知の農林水産物に関する情報発信等に関係機関・団体が連携して取り組み、本市の農林漁業への理解の醸成を図ります。

<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む教育・保育施設, 学校の割合	教育・保育施設	89.0%	95%
	小学校	79.1% (R4年度値)	93%

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
乳幼児期 (0~5歳)	○栽培活動や体験活動を通じて, 食への興味や関心を高めます	・教育・保育施設などにおける栽培・菜園活動の実施 ・クッキング保育の実施
学童・思春期 (6~17歳)	○農林漁業や食への関心, 理解を深めるため, 地域の生産者や関係団体などと連携した, 農林漁業体験学習を実施します ○生産者や関係団体と連携した, 学校給食を実施します	・食育体験学習の実施 ・生活, 総合的な学習の時間等における栽培体験学習の実施
全世代共通	○高知の農林水産物について情報発信します ○農林漁業や食に関する関心や理解を深めるため, 体験の機会を提供します	・高知の農林水産物に関するイベントの実施 ・市民農園の貸付



【酪農体験】



【農業体験】



【園児による鏡川へのあゆの稚魚放流】



【畜産物に関するイベント】

## (2) 次世代に豊かな食をつなぐための食育

### ④ 人の輪をつなげるための取組

食育は、市民自らが生涯にわたり、それぞれのライフスタイルに合った活動を実践することからはじまり、それが地域へ、次世代へとつながっていきます。

食育に関わる地域や関係者が連携・協働し合って、充実した食育活動を展開していくことができるよう、食育推進の体制を充実させていきます。

#### <現状と課題>

##### ●食を通じた交流

生活様式の変容や核家族化が進む中、伝統的な行事食、地域の料理・食材を食べる経験や子どもの基本的な生活習慣づくりを家庭だけで対応することは難しくなっているため、地域で食育の輪を広げていく環境づくりが大切になってきています。

また、地域では、住民を対象とした料理教室、もちつき体験などの交流や食を通じたイベントなども開催され、地域住民の交流の場や仲間づくりの機会となっています。ここ数年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域での交流機会は減少していますが、以前のように食を通じた交流の機会が増えることで、地域での繋がりが強まることが期待されます。

##### ●関係者の連携・協働による取組

本市では、食を通じたボランティア活動に取り組む食生活改善推進員を育成・養成し、協働で食育を推進しています。また、様々な分野の関係者や関係団体が連携して総合的に食育に取り組むために、食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」を実施しており、登録団体の連携による食育活動が広がってきています（34 ページ参照）。高知市における食育活動をさらに展開していくためには、市民、地域、事業者、行政などの関係者が連携・協働し、多様な取組を推進していくことが必要です。

#### <今後の方向性>

- ・地域の伝統行事、料理教室等食を通じた地域の人との交流の場を提供します。
- ・地域文化に触れる体験や学習などの事業を、地域が主体となり企画・検討します。
- ・学校や地域が主体となり、コミュニケーションや豊かな食体験にもつなげる共食の機会の仕組みづくりを進めます。
- ・地域で食育の輪を広げていくため、食生活改善推進協議会や「こうちし食育やるぞねっと」など、多様な主体と連携・協働していきます。

幅広い世代の方を対象に地域で食育活動に取り組んでいます。





<目標(指標)>

目標(指標)	対象	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
「食育」の取組をしている市民の割合	20～70歳代	97.3%	100%
地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	小学生	56.4%	60%
	中学生	54.6%	58%
	20～70歳代	53.4%	60%
高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数	「こうちし食育やるぞねっと」登録団体数	15団体	20団体

<ライフコースアプローチを踏まえた取組>

	取組目標	取組例
乳幼児期 (0～5歳)	○市民、地域、関係団体、行政などが多様に連携・協働し、充実した食育活動を進めます	・地域の方と教育・保育施設などで食を通じた交流
学童・思春期 (6～17歳)		・学校給食を通して共食の機会をもつ ・ふれあい給食事業の実施
青年期 (18～39歳)		・市民学校・成人講座・市民講座
壮年期 (40～64歳)		・市民学校・成人講座・市民講座
高齢期 (65歳～)		・地域の中に住民主体による通いの場(通所B*など)を拡充
全世代共通	・世代間交流ふれあい事業 ・食生活改善推進員による食育推進啓発活動 ・関係企業との連携・協働による取組 ・こうちし食育やるぞねっと登録団体による食育活動 ・地域やボランティア組織が主体となって地域コミュニティの推進等に取り組む活動(よこせと海辺のにぎわい市、子ども食堂など)	



【よこせと海辺のにぎわい市】



【鏡公民館市民学校 ピザ作り教室】

### 3 食育推進に向けた目標

10の具体的な取組の指標を、「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」の3つの視点で11の目標に整理しました。

#### 【食育推進に向けた目標一覧】

視点	目 標	指 標	現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
えらぶ	健康的な食を選ぶ	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	幼児保護者 45.5% 20～30歳代 33.1% 20～70歳代 48.7%	60% 40% 60%
		ほぼ毎日、肉類を食べている市民の割合	60～70歳代 42.2%	50%
	安全安心な食を選ぶ	食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20～70歳代 16.3%	25%
		食品の安全性に関する基礎的な知識があると思っている市民の割合	20～70歳代 62.7%	70%
	高知の食を選ぶ	学校給食で使用する食材のうち、地場産物を活用する割合（食材数ベース）	学校 53.8%	50%以上
はぐくむ	健康な心身をはぐくむ	朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	幼児 98.0% 小学生 92.5% 中学生 85.6% 20～70歳代 84.3%	99% 95% 90% 87%
		ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた取組をしている市民の割合	20～70歳代 76.9%	80%
		ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	20～70歳代 37.6%	45%
		歯肉炎になっていない小中学生の割合	小学生 77.6% 中学生 72.2% (R4年度値)	81% 75%
		定期的に歯科医院を受診している市民の割合	20～70歳代 42.7%	45%
	高知の食（食材・食文化）を大切にする	栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む教育・保育施設、学校の割合	教育・保育施設 89.0% 小学校 79.1% (R4年度値)	95% 93%
		高知の食を豊かだと思える市民の割合	20～70歳代 86.7%	93%
	高知の自然環境を大切にする	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	20～70歳代 96.1%	99%
つなぐ	一人ひとりが取り組む	「食育」の取組をしている市民の割合	20～70歳代 97.3%	100%
	ライフステージをつなぐ	食に関する指導計画を作成している教育・保育施設の割合	教育・保育施設 90.7%	95%
	命をつなぐ	災害時の食の備えを実践している市民の割合	20～70歳代 73.5%	80%
	次世代へつなぐ	高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生の割合	小学生 82.7% 中学生 85.4%	95% 95%
		高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと思える市民の割合	20～70歳代 84.6%	90%
	社会をつなぐ	地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	小学生 56.4% 中学生 54.6% 20～70歳代 53.4%	60% 58% 60%
高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数		「こうちし食育やるぞねっと」 15団体 登録団体数	20団体	

## 第5章 関係者の連携・協働による取組



### 1 食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」

食育は幅広い分野に関わることから、多くの関係者・関係団体等が連携して総合的に取り組む必要があります。高知市では平成27年度に、食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」を立ち上げ、食育に関する情報の共有や連携の機会づくりを後押ししていただけるよう、「情報交換会」の開催等を通じて、市民、関係者、行政の協働により計画を推進してきました。

近年では、情報交換会で交流を持った登録団体同士が協働で事業に取り組むなど、食育活動に広がりが見られるようになってきています。

#### こうちし食育やるぞねっと登録団体

- ① 高知市食生活改善推進協議会
- ② 株式会社 高南メディカル
- ③ 公益社団法人 高知県栄養士会
- ④ 高知市食品衛生協会
- ⑤ 株式会社 サンシャインチェーン本部
- ⑥ 株式会社 サニーマート
- ⑦ 公益財団法人 高知県魚さい加工公社
- ⑧ 株式会社 サンプラザ
- ⑨ 拉麺一方
- ⑩ 一般社団法人 全日本司厨士協会瀬戸内支部
- ⑪ 高知市役所食堂 せんだんの木
- ⑫ 高知学園大学 健康科学部 管理栄養学科
- ⑬ 医療法人静高会 うぐるす歯科医院
- ⑭ 高知市農業協同組合
- ⑮ 高知県立大学 健康栄養学部 健康栄養学科

(令和5年11月現在)



【登録団体同士の協働の取組】

(高知学園大学と食生活改善推進協議会の合同調理実習)



【情報交換会の様子】

## 2 高知市食育推進会議

食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成30年1月に高知市食育推進会議条例を制定し、庁外有識者で組織された「高知市食育推進会議」（以下「推進会議」という。）を設置しました。

推進会議では、本計画の作成や実施の推進に関すること等を審議し、本計画の実施段階においても、進捗状況を評価していきます。

市民一人ひとりの「わたしから始まる高知の食育」を推進し、「食とひとつながり輝く元気なまち」の実現をめざします。

### 【構成】

- ・生産者, 事業者
- ・医療・保健関係者
- ・教育, 児童福祉関係者
- ・学識経験者
- ・食育に関する市民団体等

## 3 高知市食育推進委員会

食育に関係する部局が関係団体や庁内関係課との連携を深め、効果的な食育の推進を図るため、平成21年6月、「高知市食育推進委員会」（以下「委員会」という。）を設置しました。

委員会では、食育の取組の把握や評価、情報交換を行い、月1回の食育だよりの発行や、高知市役所食堂を拠点とした啓発活動など連携しながら食育を推進しています。

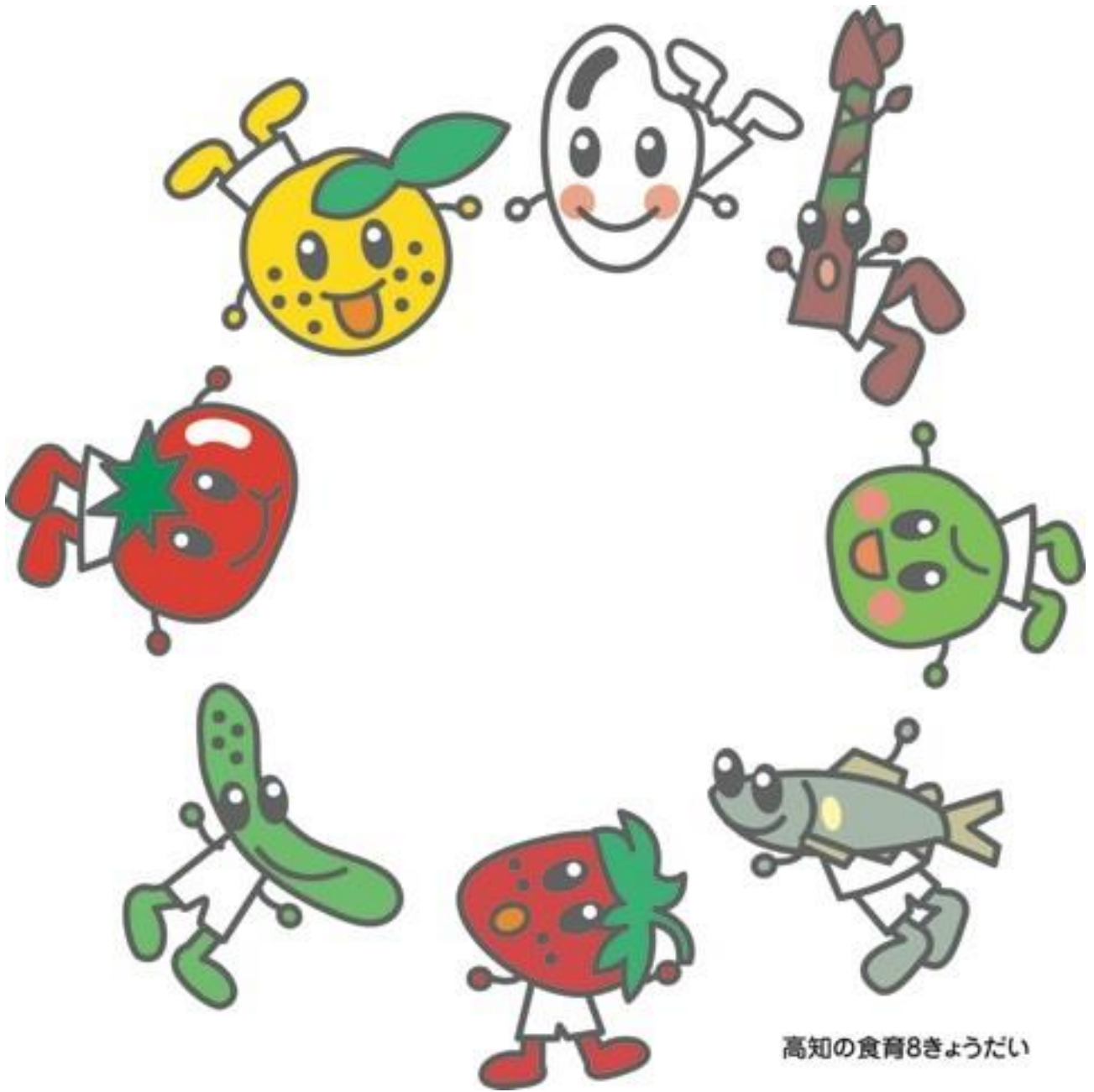
### 【構成】

- |         |        |
|---------|--------|
| ・子ども未来部 | ・教育委員会 |
| ・総務部    | ・市民協働部 |
| ・農林水産部  | ・商工観光部 |
| ・環境部    | ・健康福祉部 |



【高知市役所食堂「せんだんの木」での啓発】

# 【資料編】

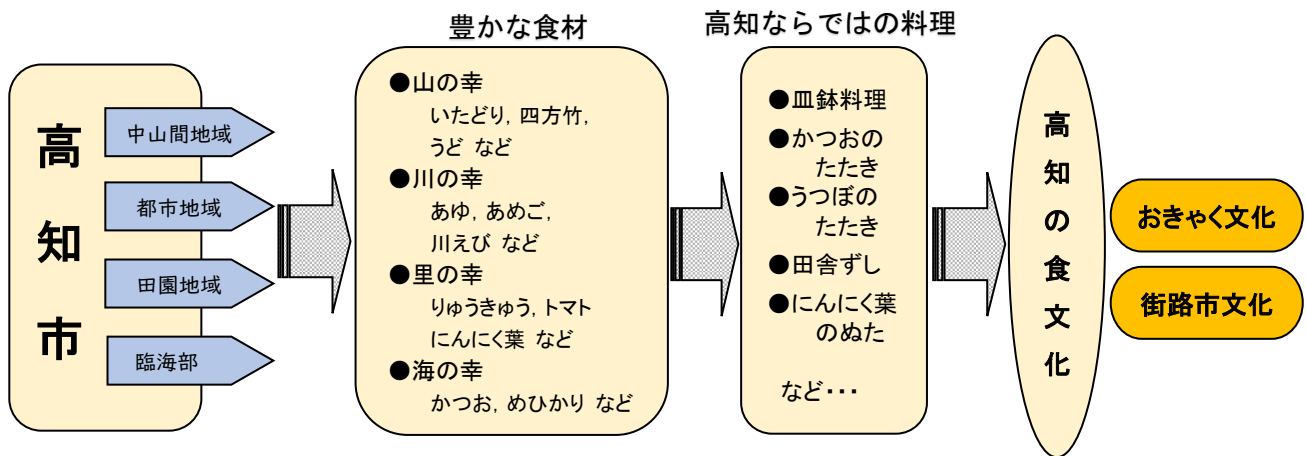
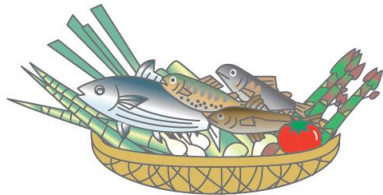


高知の食育8きょうだい

# 1 食をめぐる高知市の現状

## (1) 高知市の風土と食文化

高知市には、自然豊かな中山間地域と広域的な都市機能が集積する都市部、そしてうるおいのある田園地域といった様々な地域が含まれ、南は土佐湾に面しています。こういった豊かな自然環境に育まれた多種多様な食材から、高知ならではの料理が生まれ、「おきやく文化」や「街路市文化」といった固有の食文化や食生活を形成しています。



## (2) 高知市食育に関するアンケート調査結果

### 調査概要

#### 【目的】

高知市における食育に関する意識や取組についての現状を把握し、平成30年度に策定した「第3次高知市食育推進計画」（計画期間：令和元年度～令和5年度）を評価し、次期計画を策定するための基礎資料とするため実施する。

【期間】 令和5年4月～7月

【実施主体】 高知市食育推進会議

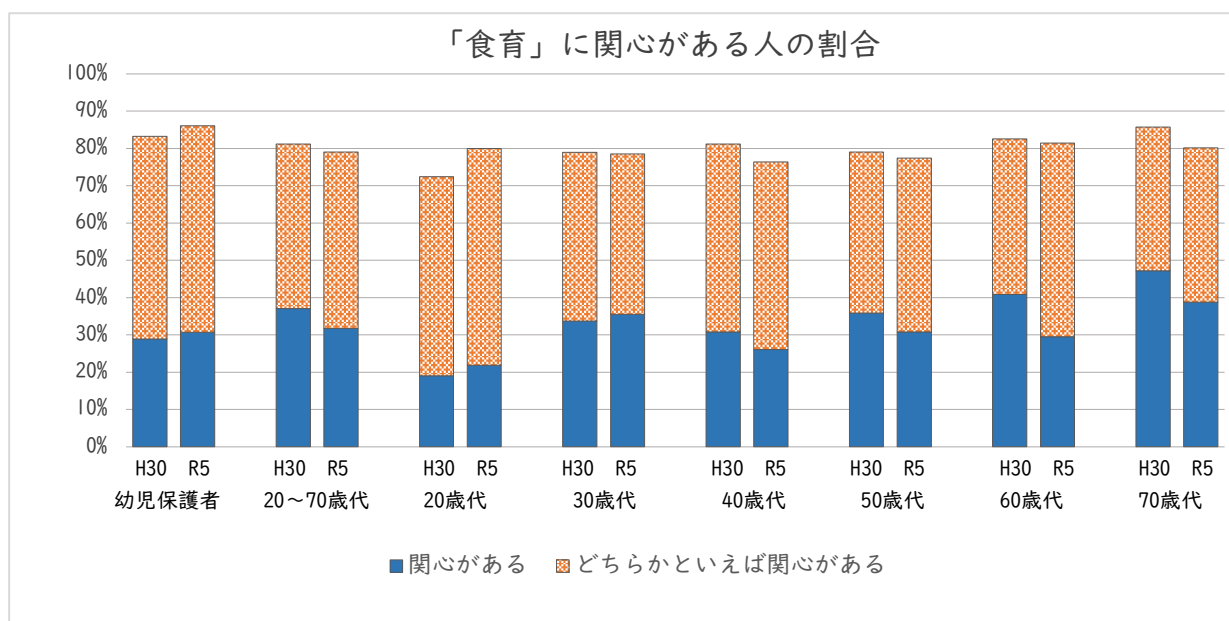
【調査対象、方法及び実施状況】

		幼児	児童	生徒	成人
対象者		3歳児（保護者）	小学5年生	中学2年生	20～70歳代
調査方法		3歳児健診対象児のうち4～6月に受診予定の受診票に同封3歳児健診会場にて回収	市立小学校 市立義務教育学校 特別支援学校 計42校に協力依頼 Googleフォームを使用し実施	市立中学校 市立義務教育学校 特別支援学校 計20校に協力依頼 Googleフォームを使用し実施	住民基本台帳より層化無作為抽出し郵送 返信用封筒にて回収 またはWebフォームから回答
実施状況	対象者数	583	2,522	1,792	2,500
	回収数	352	2,301	1,498	892 (返送696+Web196)
	回収率	60.4%	91.2%	83.6%	35.7%

### 調査結果

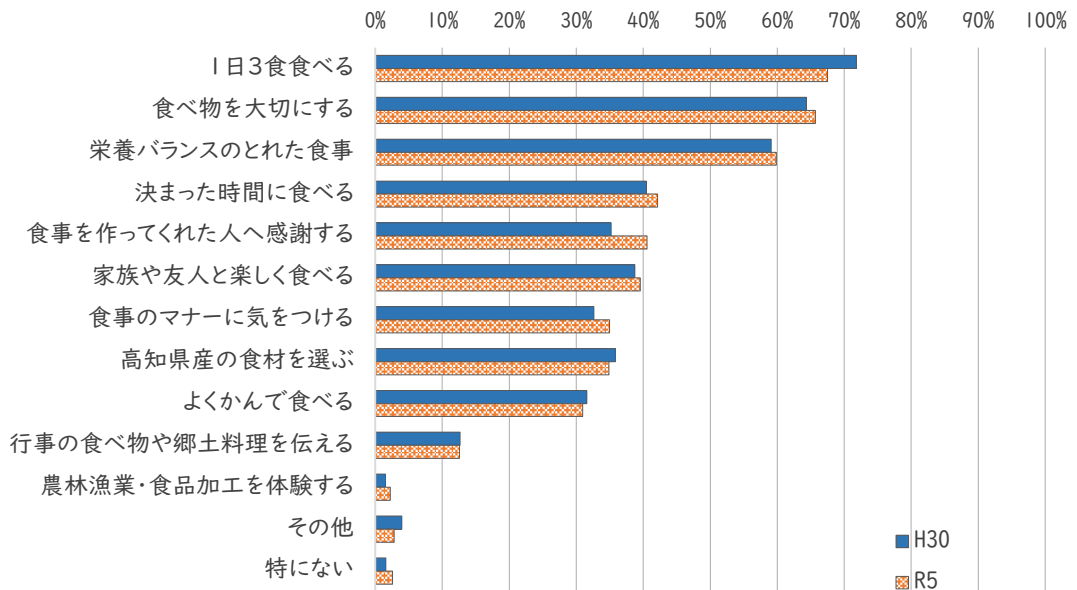
#### ①食育の関心・実践について

あなたは、「食育」に関心がありますか。

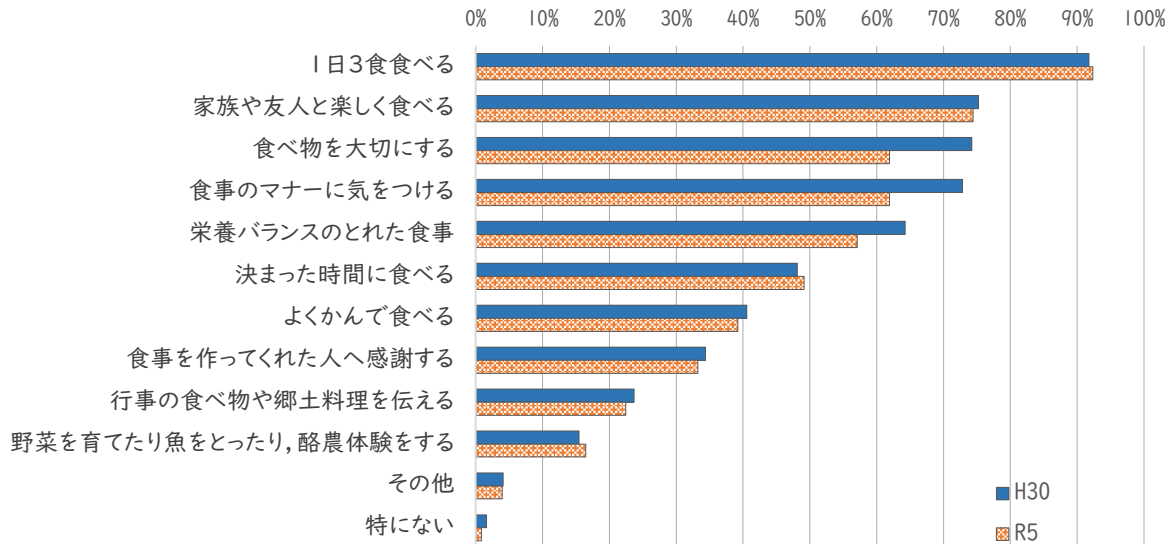


あなたが「食」に関することで実践していることは何ですか。(複数回答)

### 食に関することで実践していること (成人)

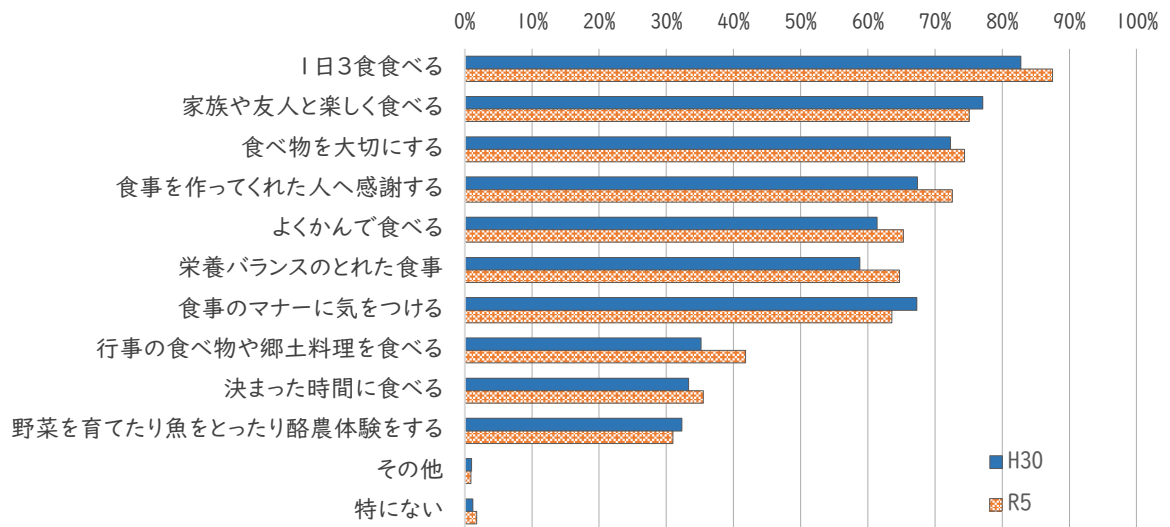


### 子どもの食に関することで実践していること (幼児保護者)

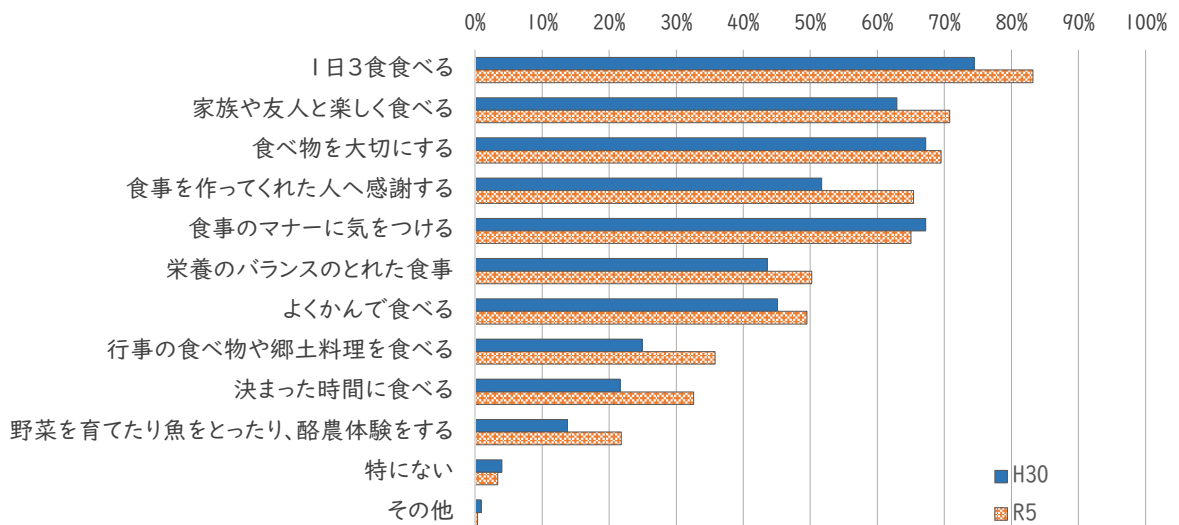




### 食に関することで行っていること（小学生）

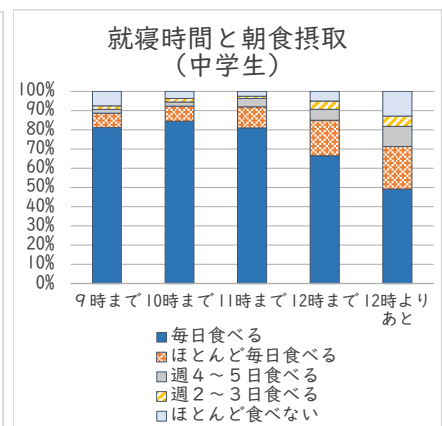
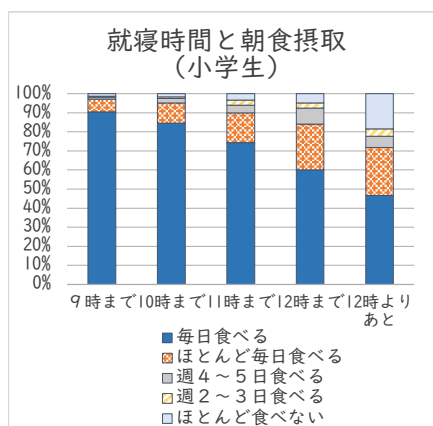
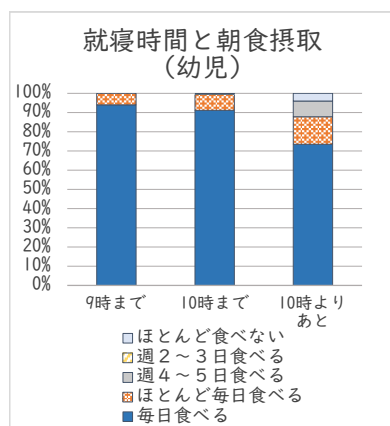
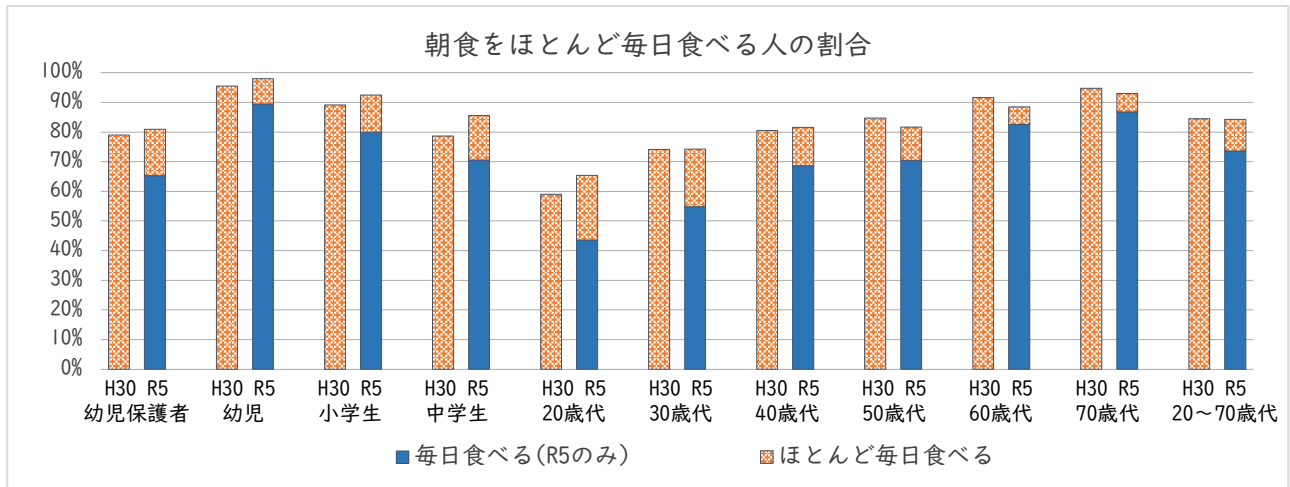


### 食に関することで行っていること（中学生）

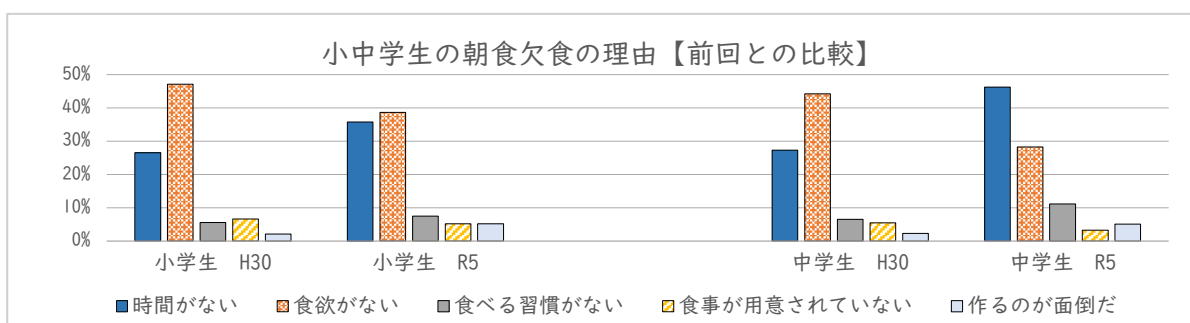
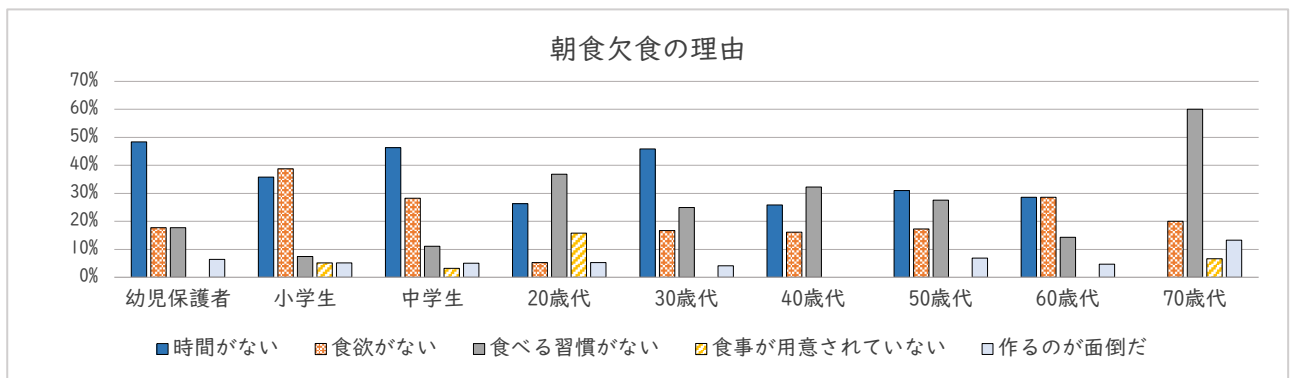


## ②現在の食生活・生活習慣について

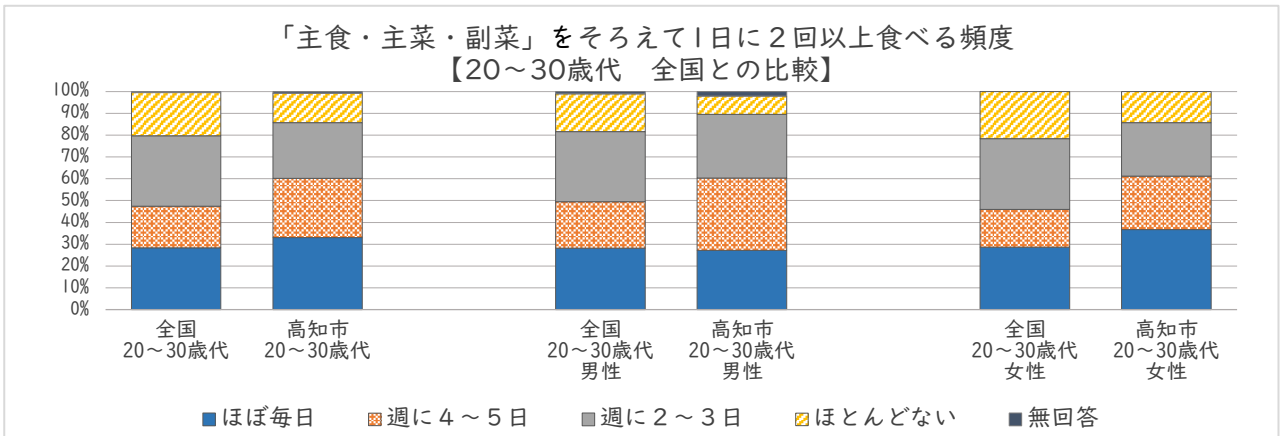
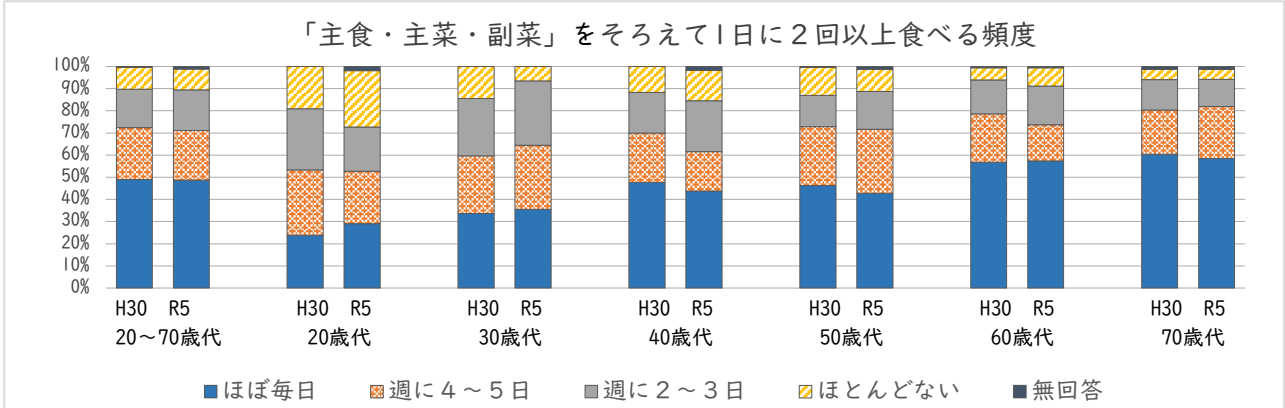
あなたは、ふだん朝食を食べていますか。



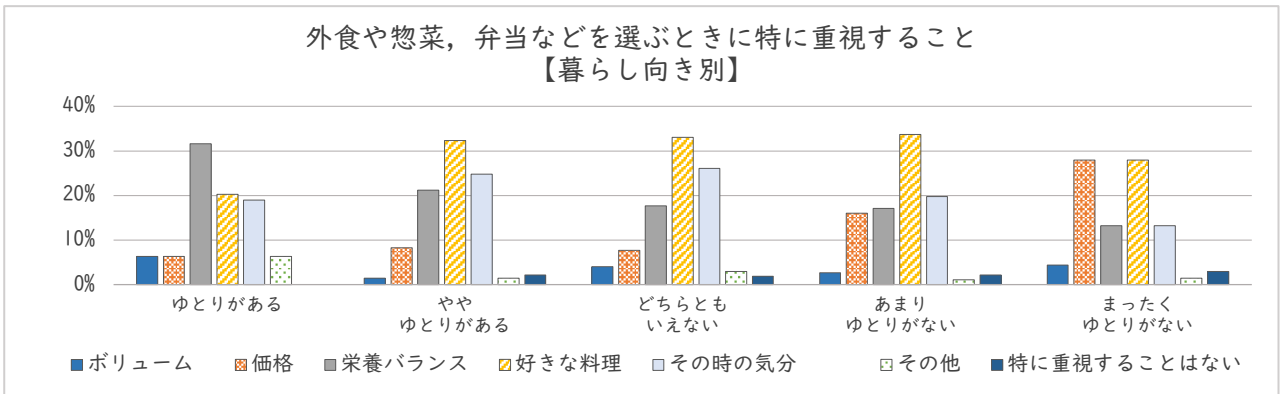
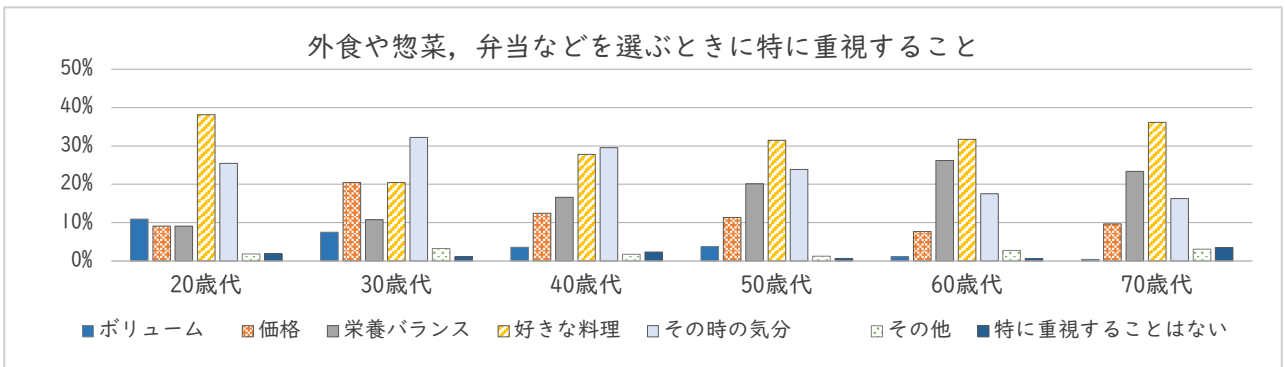
朝食を食べない主な理由は何ですか。(回答一つ)



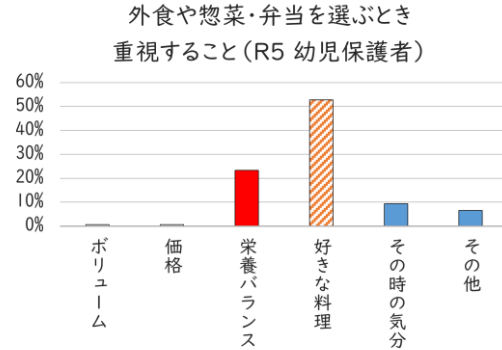
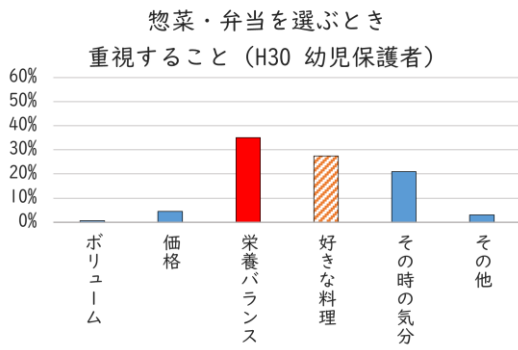
あなたは、「主食・主菜・副菜」の3つをそろえて食べるのが、1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。



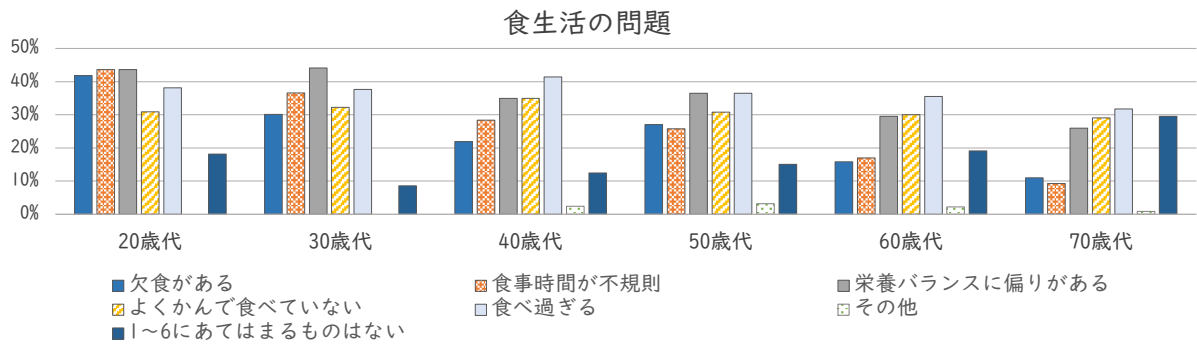
あなたが、外食や惣菜、弁当などを選ぶときに特に重視することは何ですか。(回答一つ)



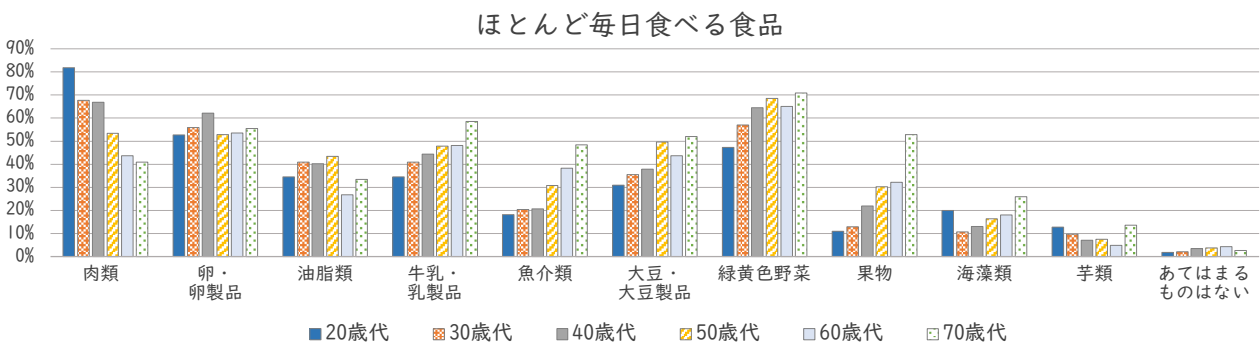
幼児保護者が外食や惣菜・弁当を選ぶとき特に重視すること



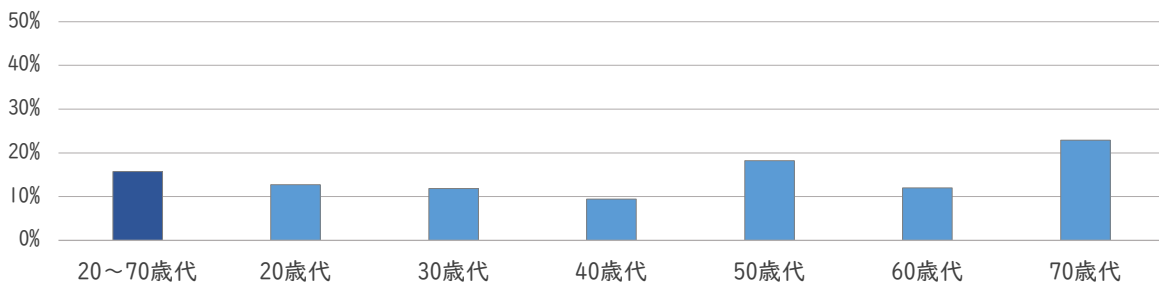
あなたの食生活の中であてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)



あなたのここ1週間の食事を思い浮かべて、次の10種類の食品のうち、ほとんど毎日食べる食品をすべて選んでください。(複数回答)

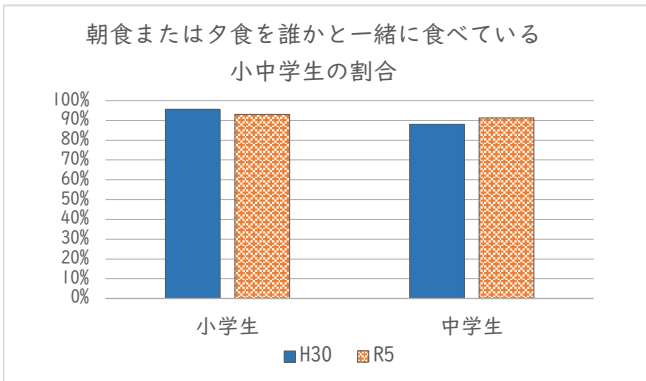
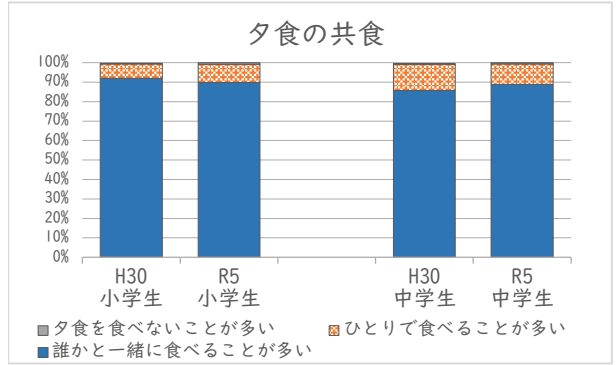
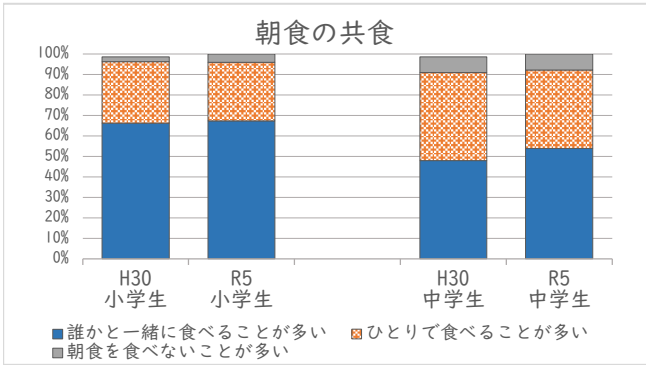


ほとんど毎日7種類以上の食品群を食べている人の割合

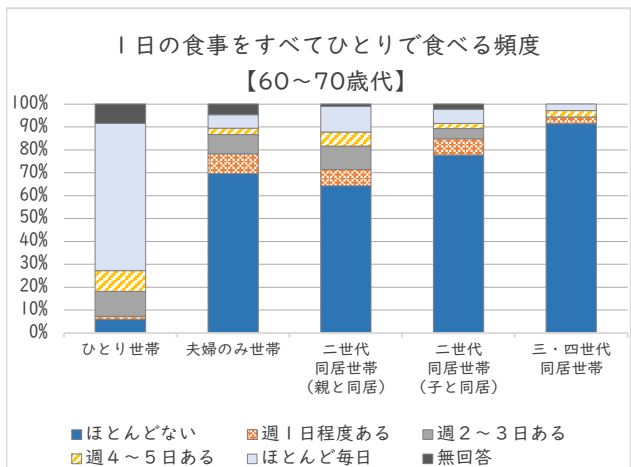
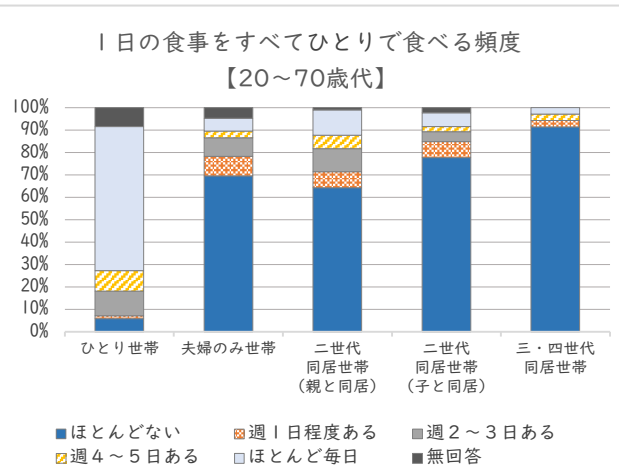
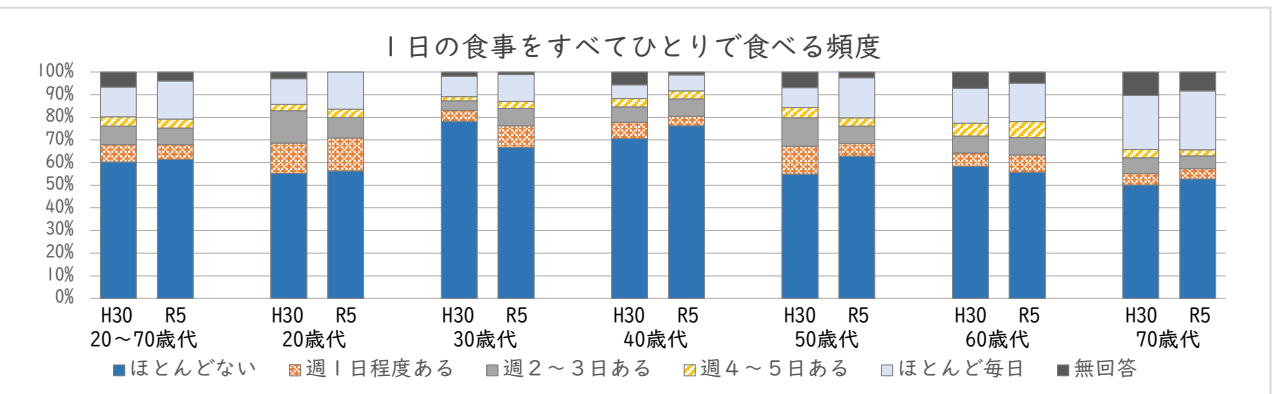


### ③共食や孤食の状況について

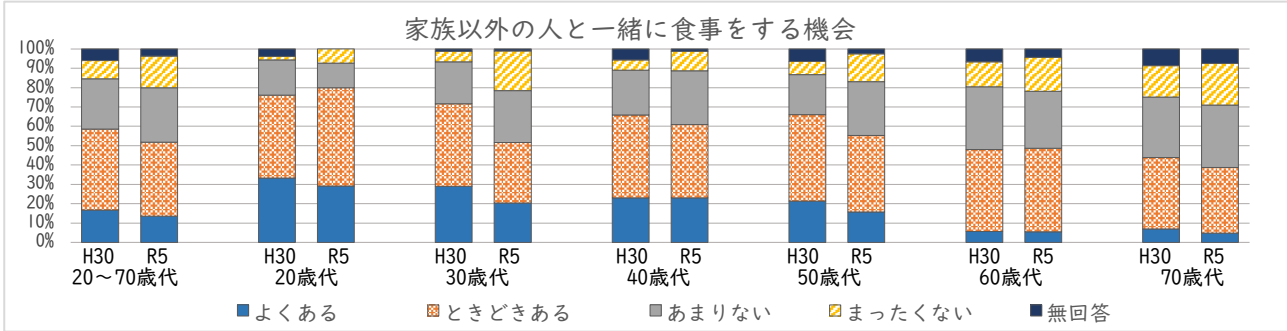
あなたは、平日（学校がある日）、朝食・夕食を誰かと一緒に食べますか。



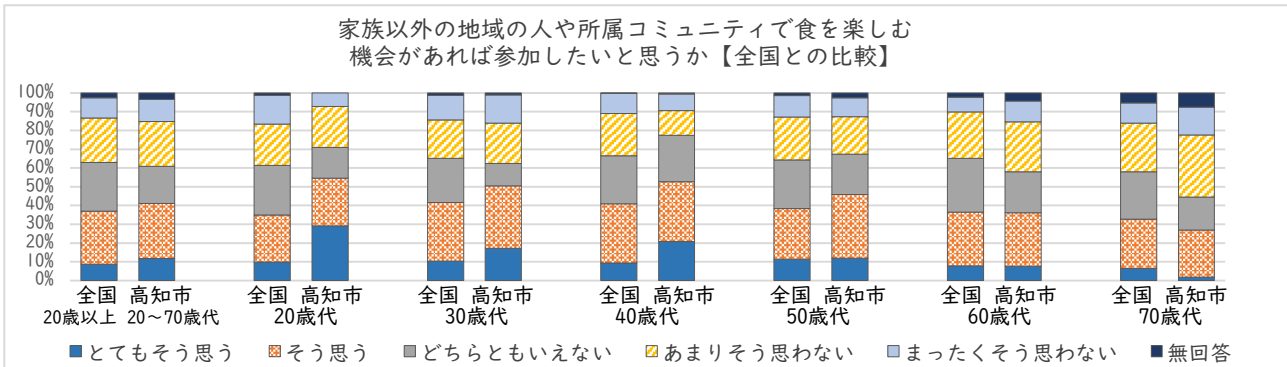
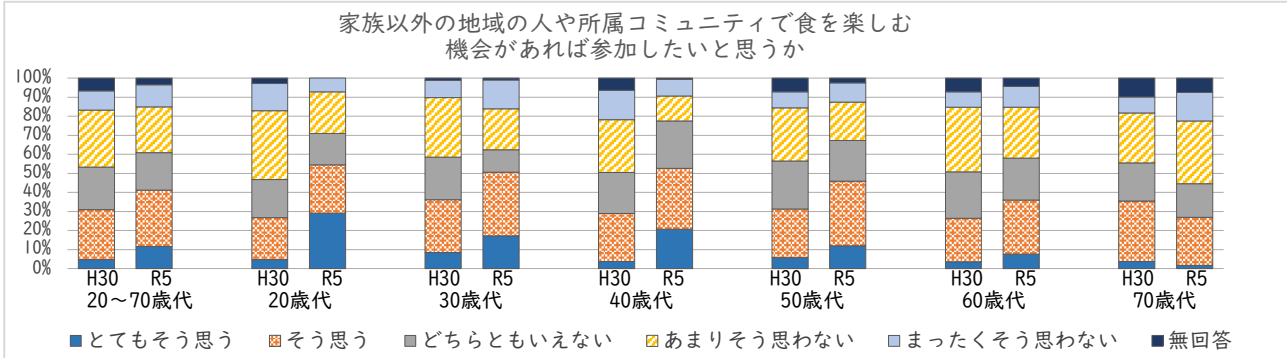
あなたは、1日のすべての食事をひとりで食べることがありますか。



あなたは、家族以外の人と一緒に食事をする機会がありますか。



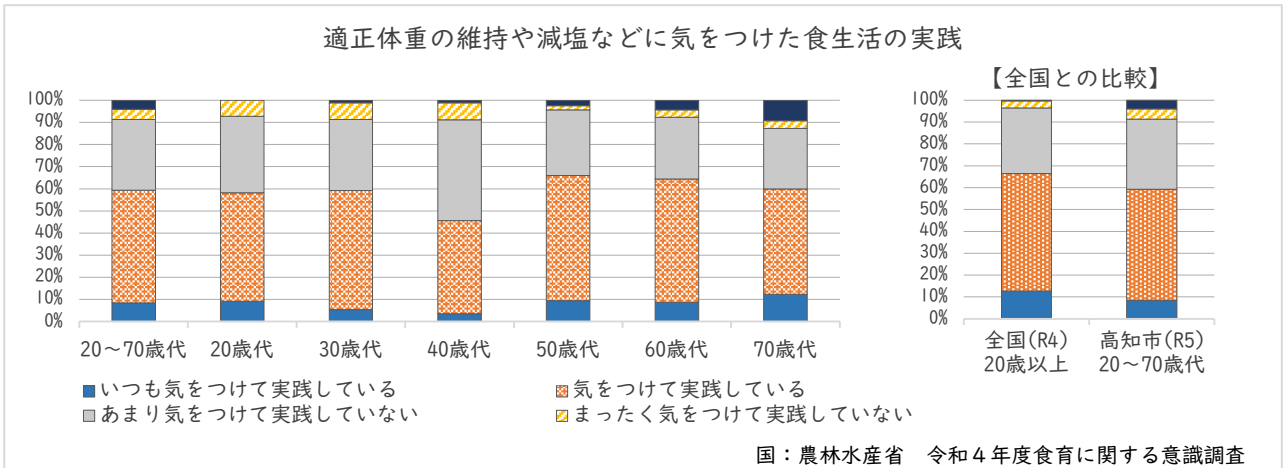
あなたは、家族以外の地域の人や所属コミュニティで食事を楽しむ機会があれば参加したいと思いますか。



国：農林水産省 令和4年度食育に関する意識調査

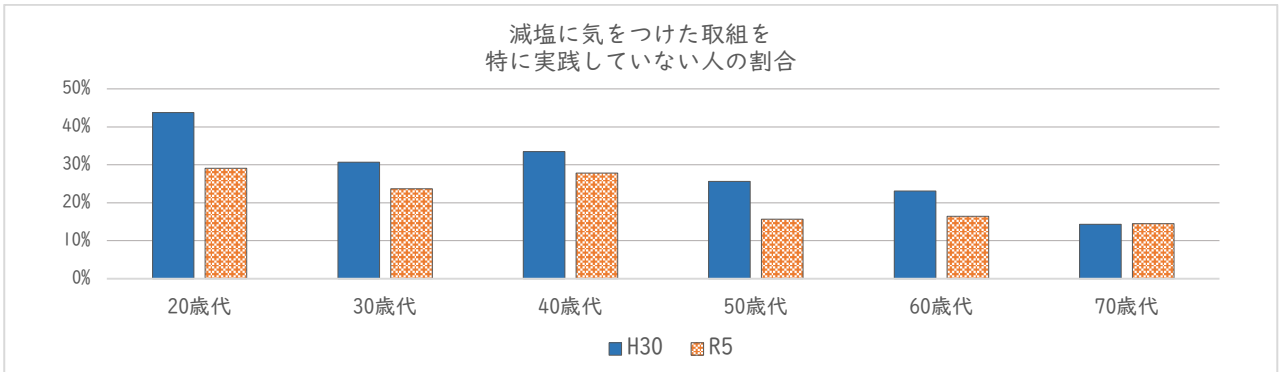
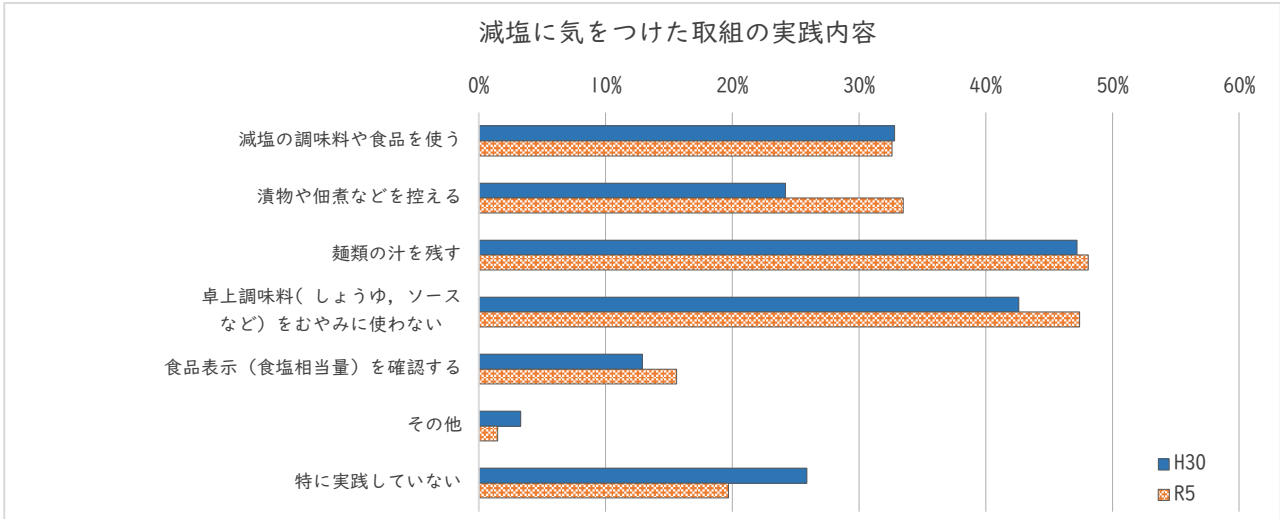
#### ④生活習慣病の予防や改善に関する実践状況について

生活習慣病の予防や改善のために、あなたはふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。

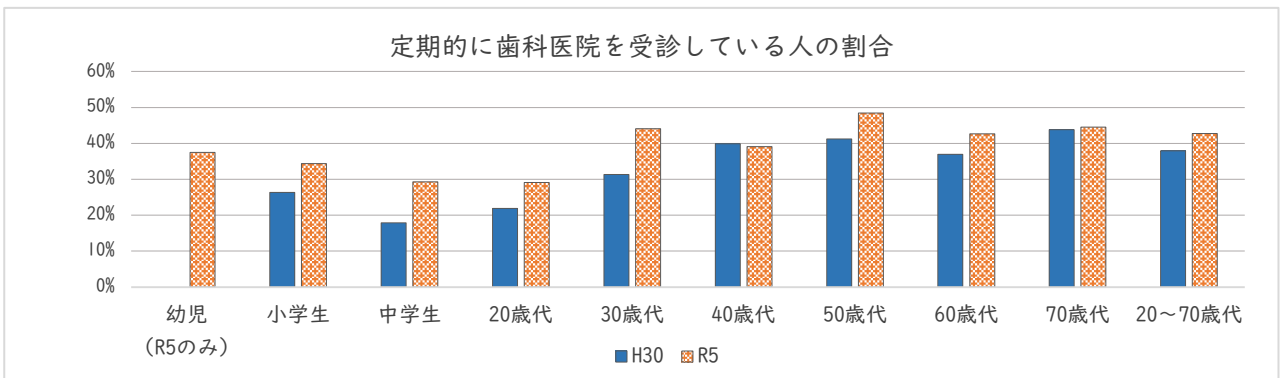
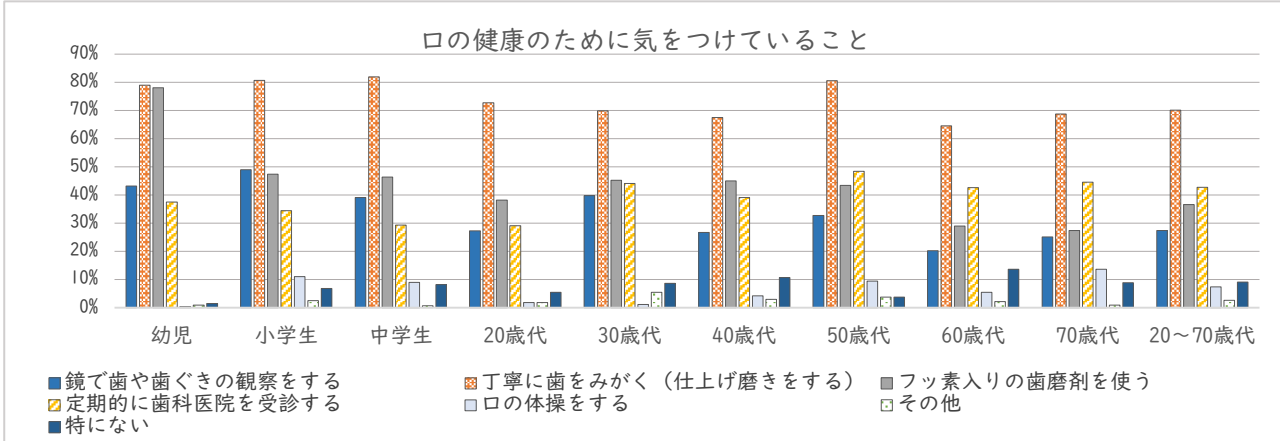


国：農林水産省 令和4年度食育に関する意識調査

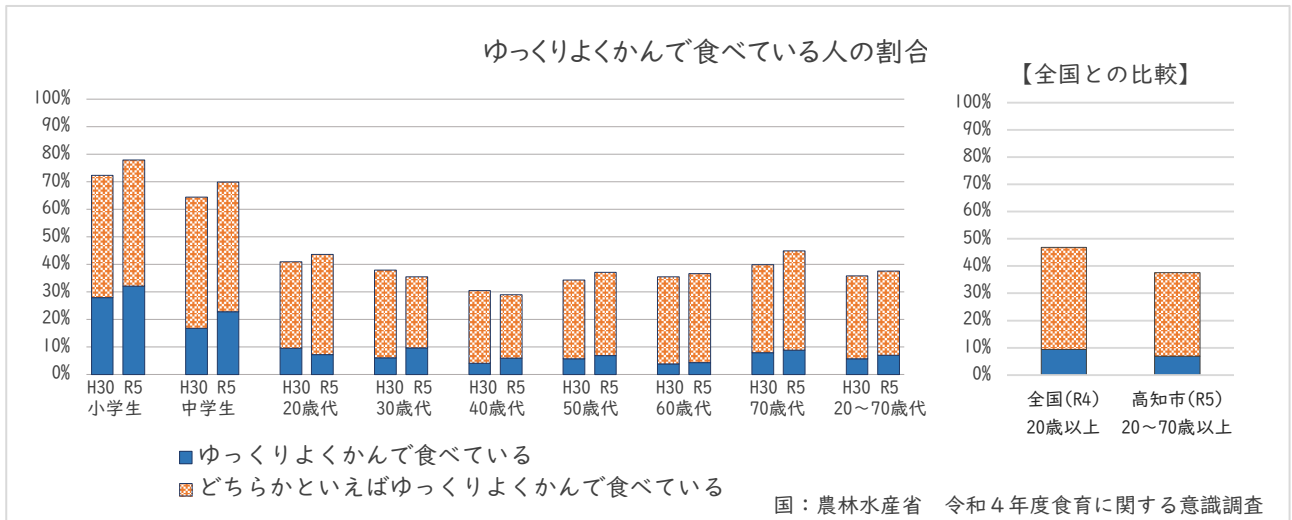
あなたが、ふだんから「減塩」に気をつけた取組として、実践していることを選んでください。(複数回答)



口の健康のために、あなたが気をつけていることは何ですか。(複数回答)

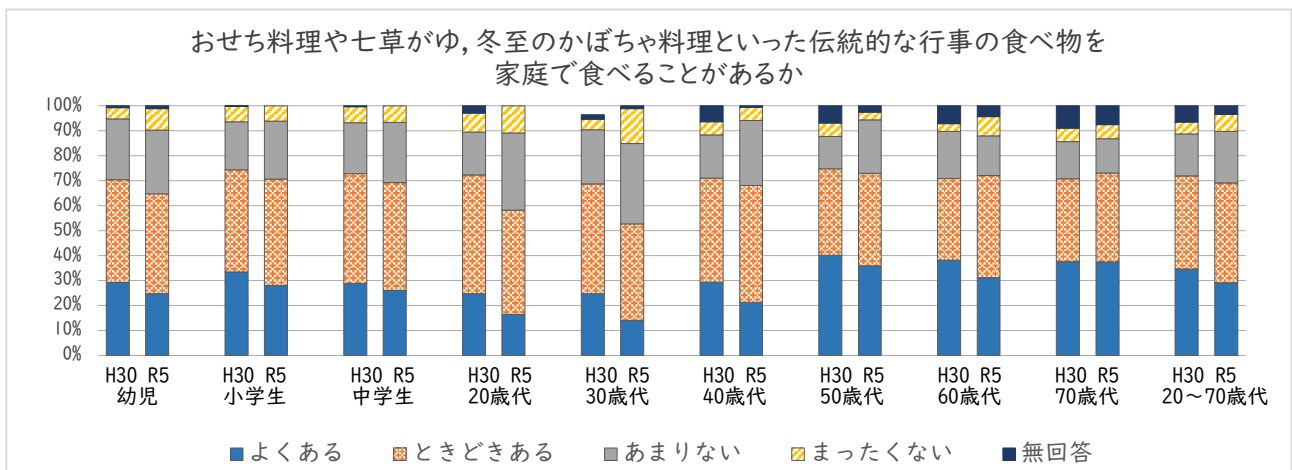


あなたは、ふだんゆっくりよくかんで食べていますか。

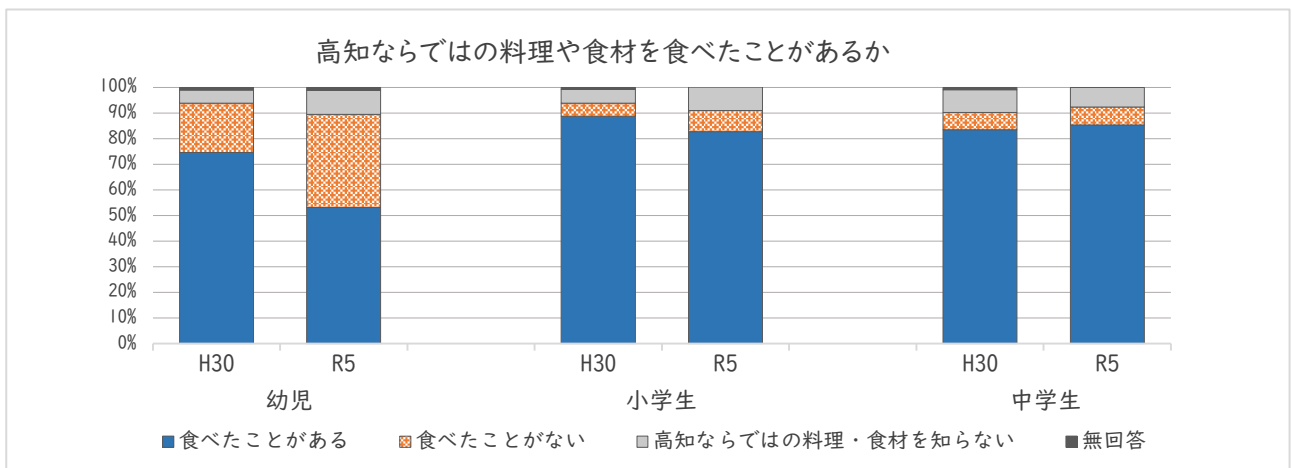


### ⑤食文化について

あなたは、おせち料理や七草がゆ、冬至のかぼちゃ料理といった、伝統的な行事の食べ物を家庭で食べることがありますか。

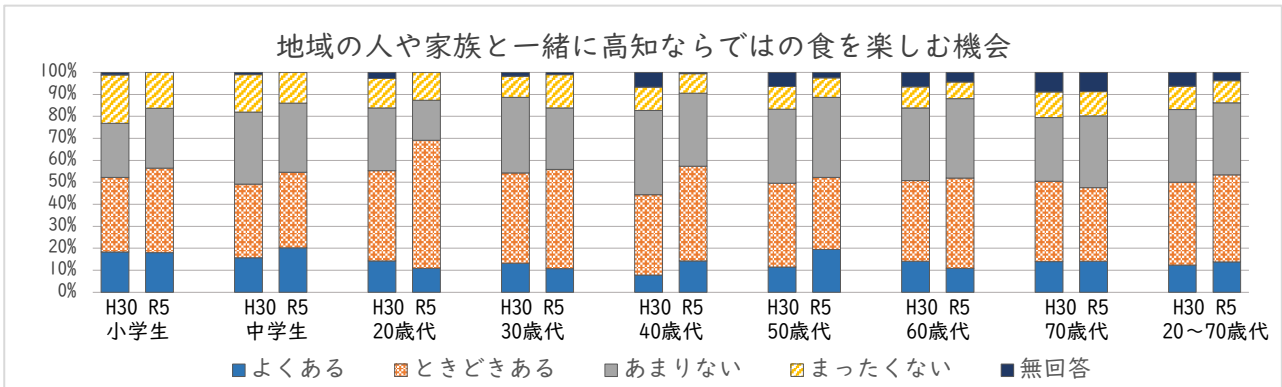


あなたは、高知ならではの料理や食材（皿鉢料理、いたどりなど）を食べたことがありますか。

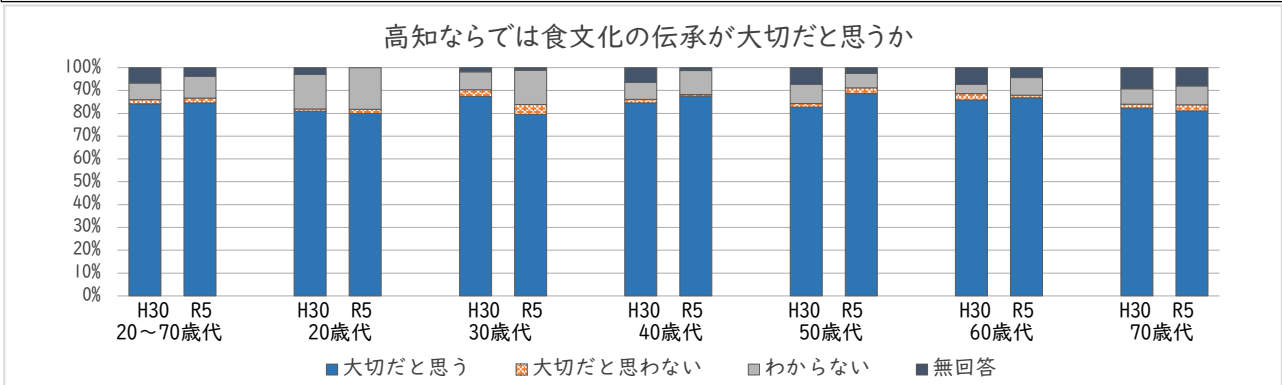




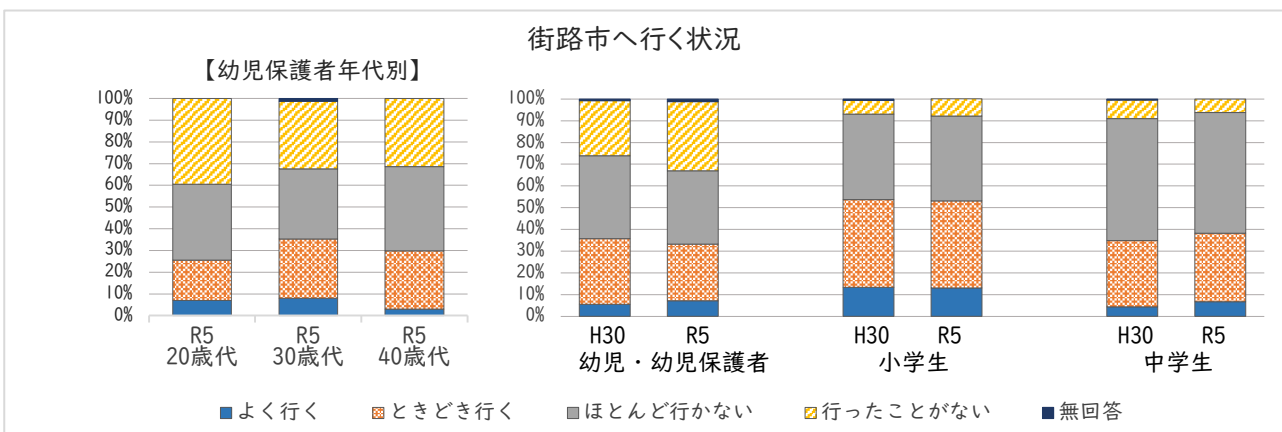
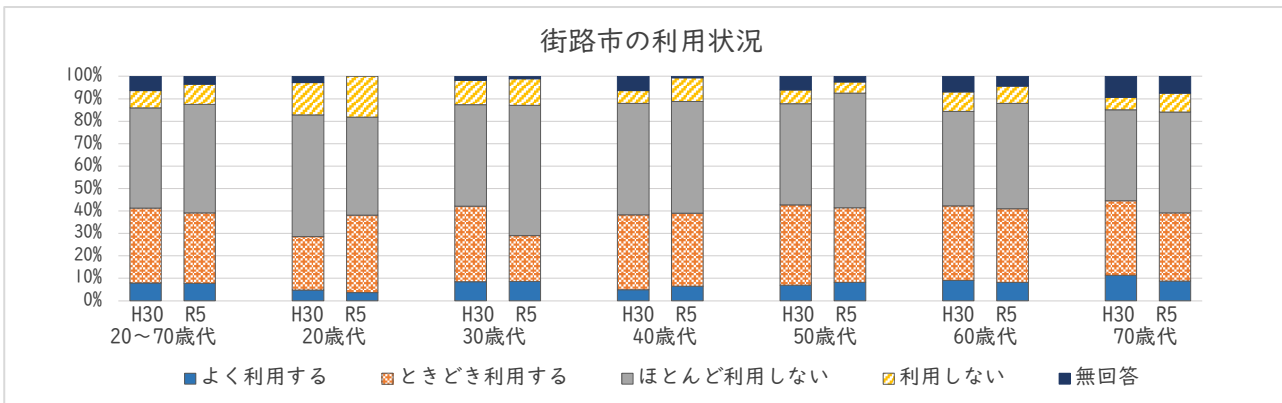
あなたは、地域の人や家族と一緒に、高知ならではの食（皿鉢料理や田舎ずし、山菜採りやタタキづくりなど）を楽しむことができますか



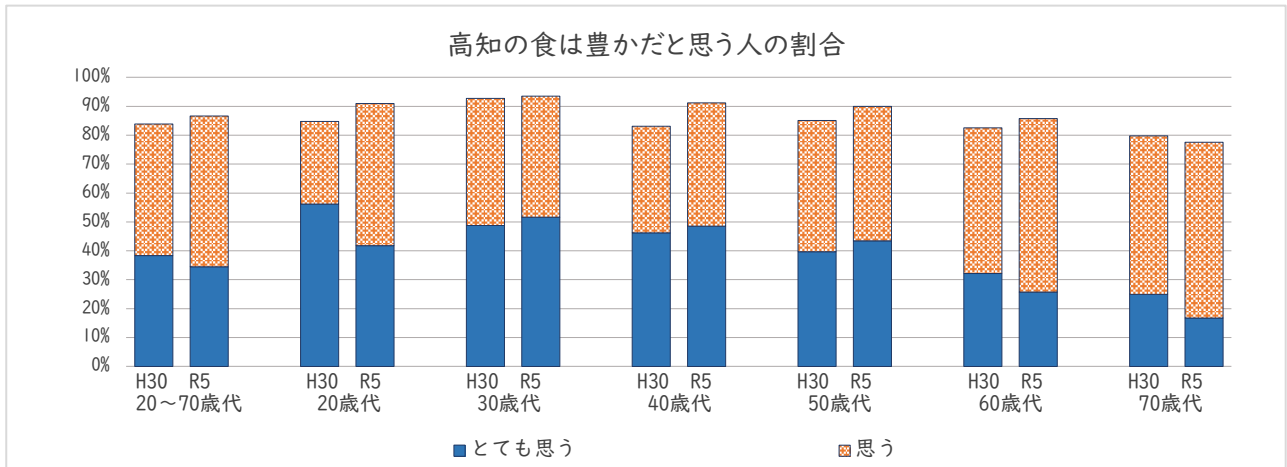
高知ならではの料理や食材、食べ方などを次世代に伝えていくことは大切だと思いますか。



高知市では木曜日や日曜日などの街路市が開かれています。あなたは街路市を利用していますか。  
(幼児保護者：お子さんと街路市に行くことがありますか。小中学生：街路市に行くことがありますか。)

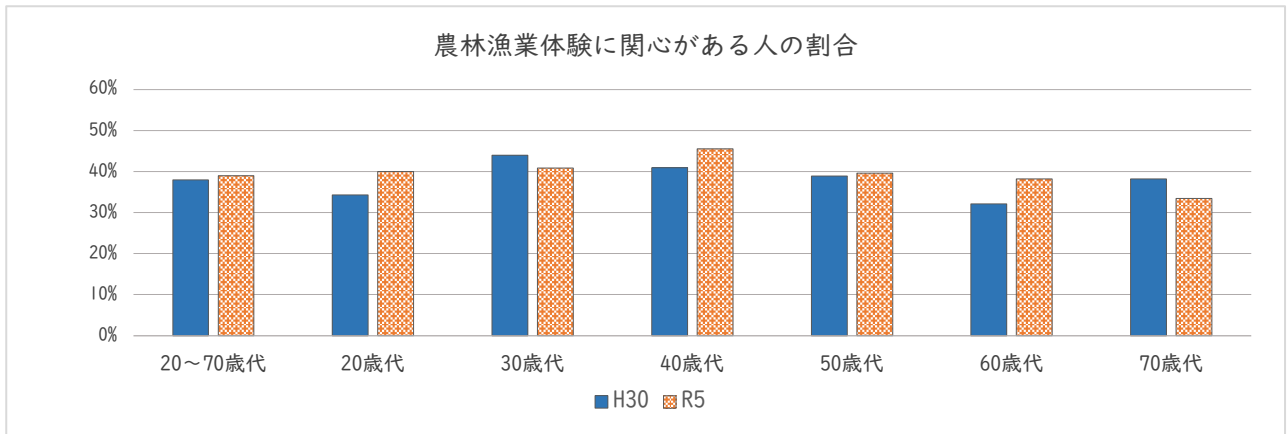


「高知の食は豊かだ」といわれますが、あなたはどのように思いますか。

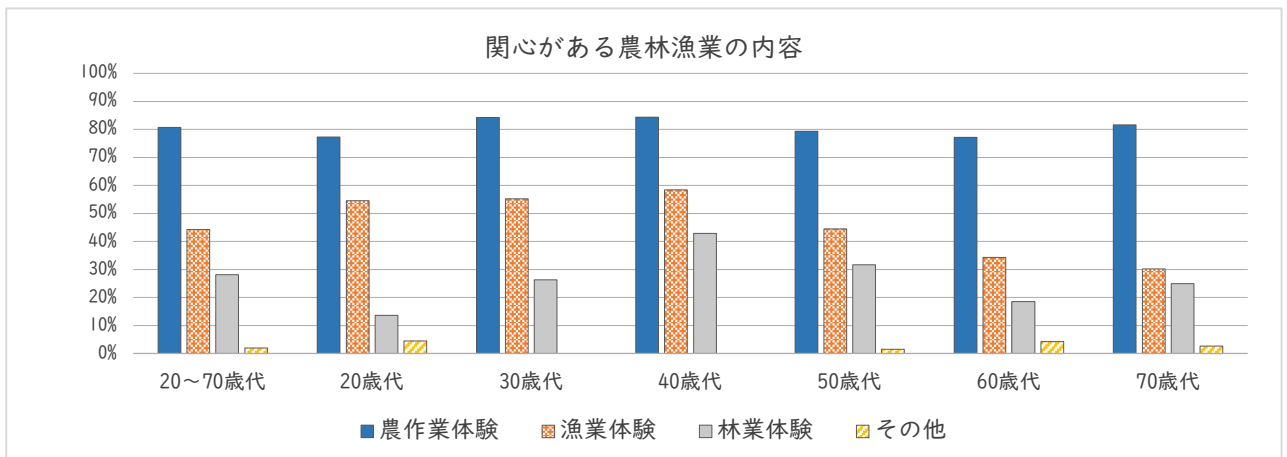


### ⑥農林漁業体験について

あなたは、農林漁業体験に関心がありますか。

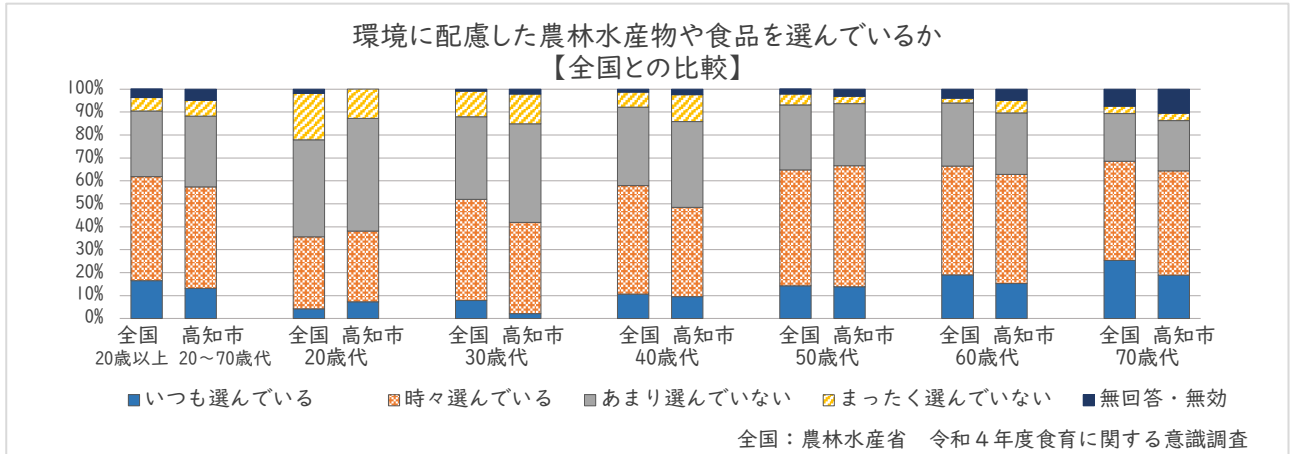


どのような農林漁業に関心がありますか。(複数回答・関心があると回答した人)

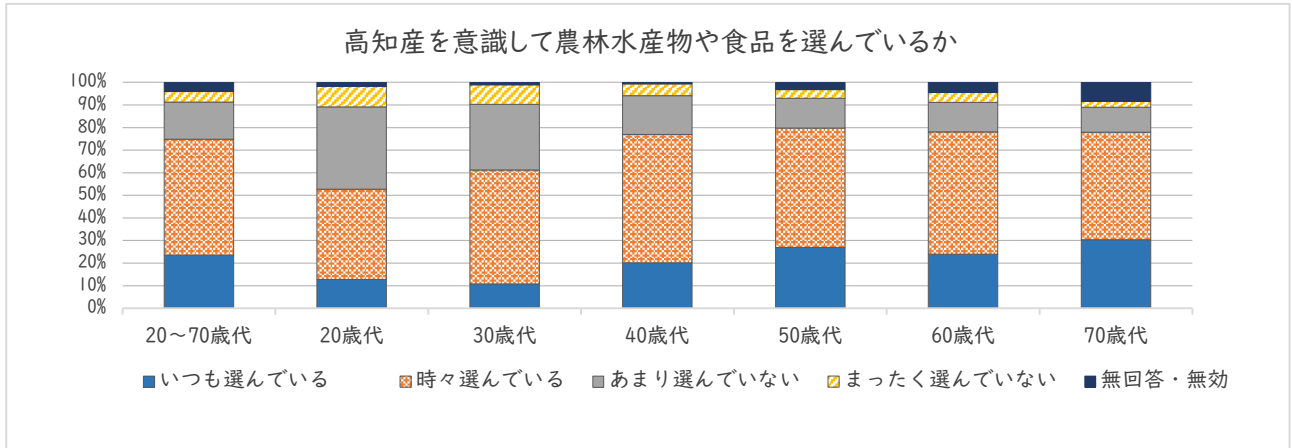


⑦環境への配慮や産地・生産者を意識することについて

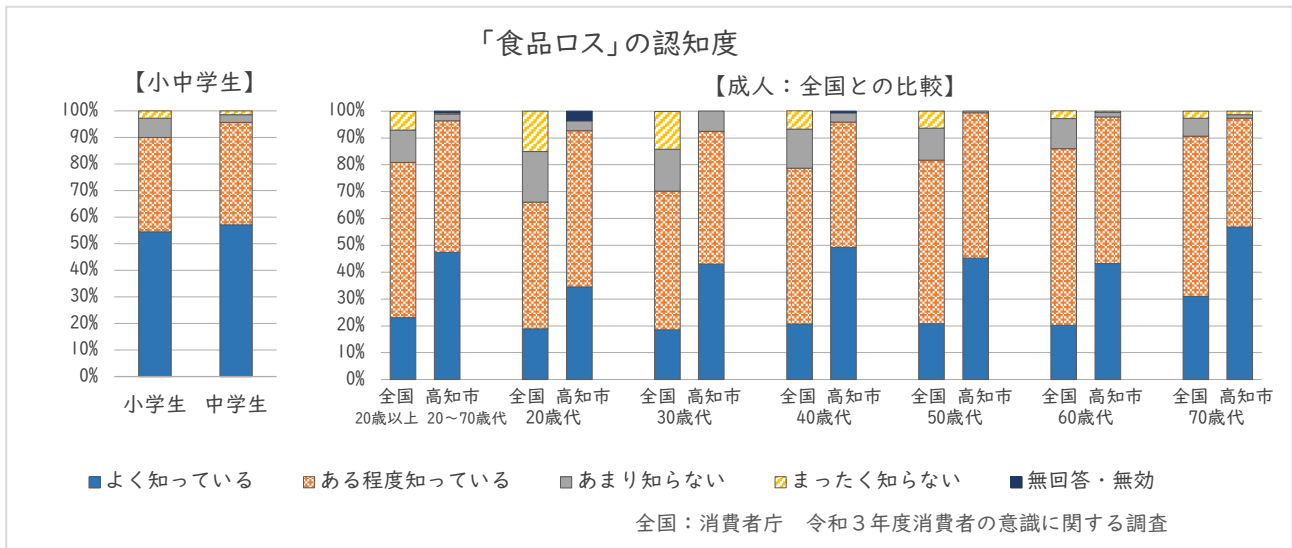
あなたは、環境に配慮した農林水産物や食品を選んでいますか。



あなたは、高知産を意識して農林水産物や食品を選んでいますか。



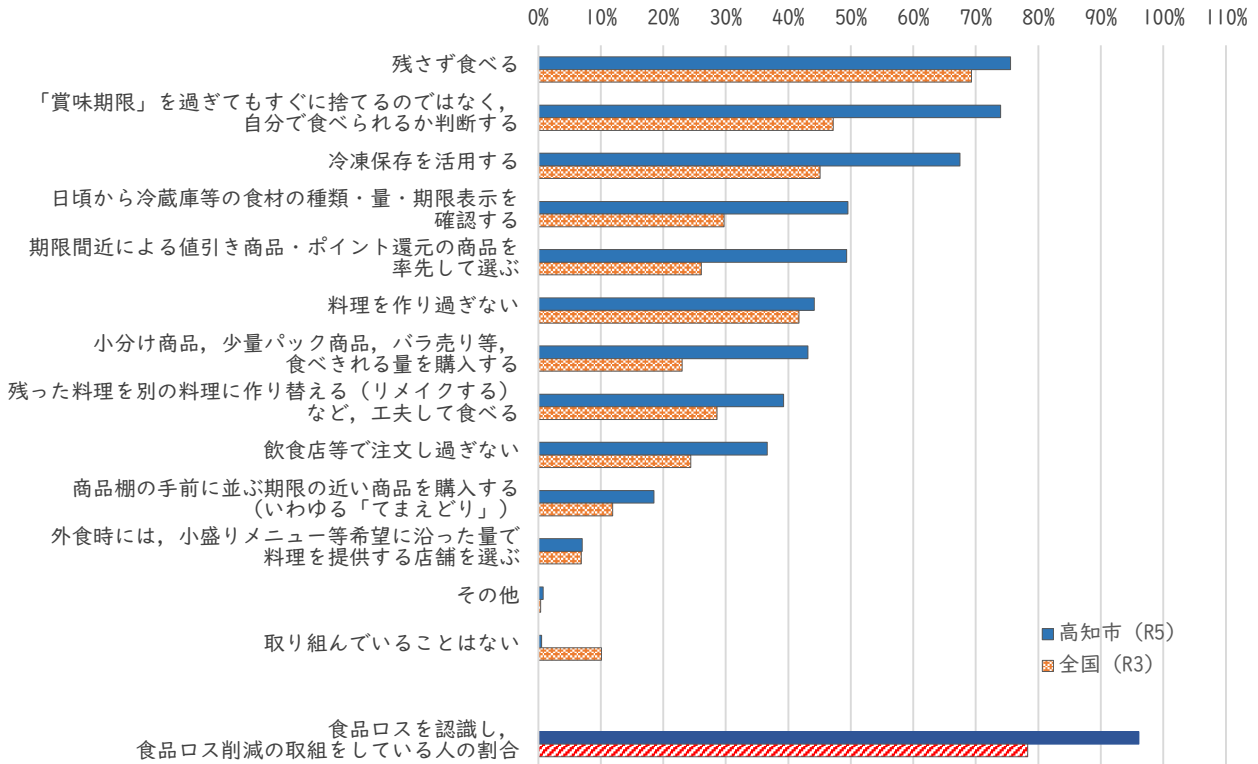
あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。



あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。(複数回答)

### 「食品ロス」を減らすために取り組んでいること

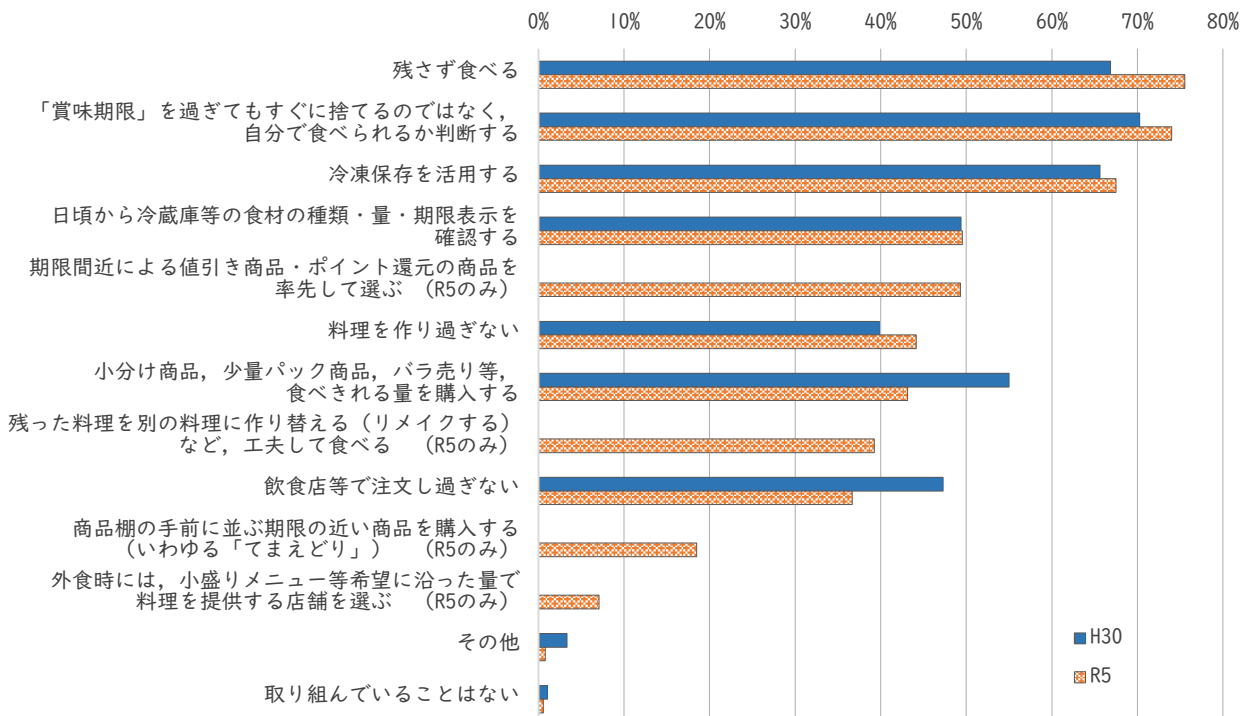
#### 【全国との比較】



全国：消費者庁 令和3年度消費者の意識に関する調査

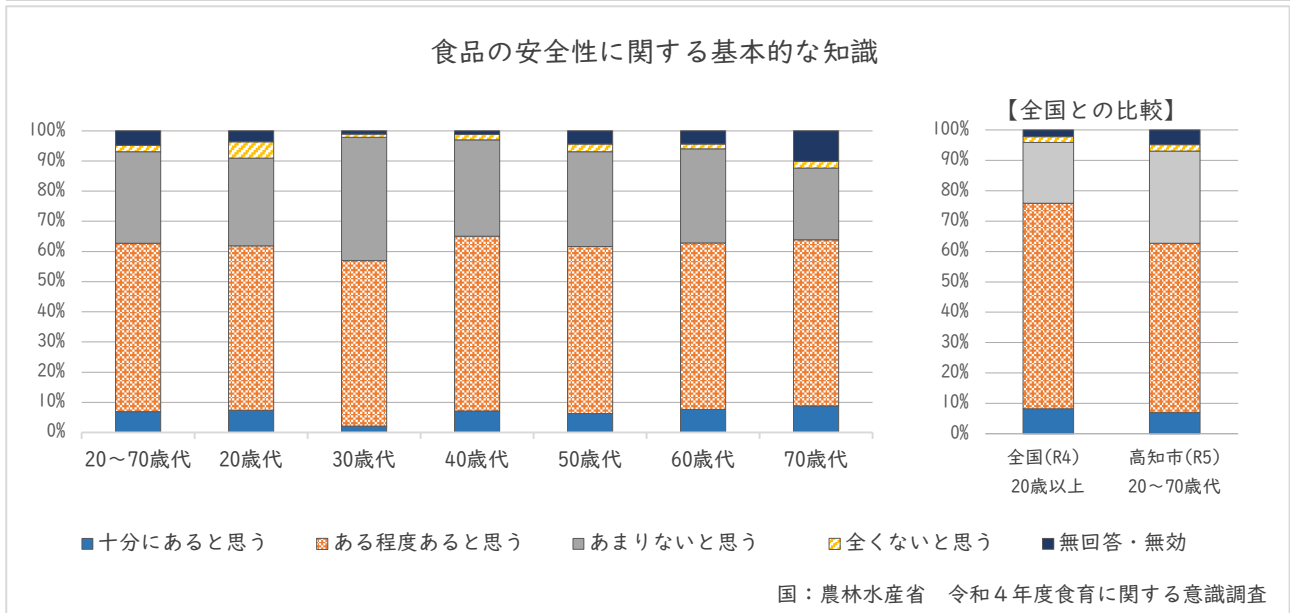
### 「食品ロス」を減らすために取り組んでいること

#### 【前回との比較】

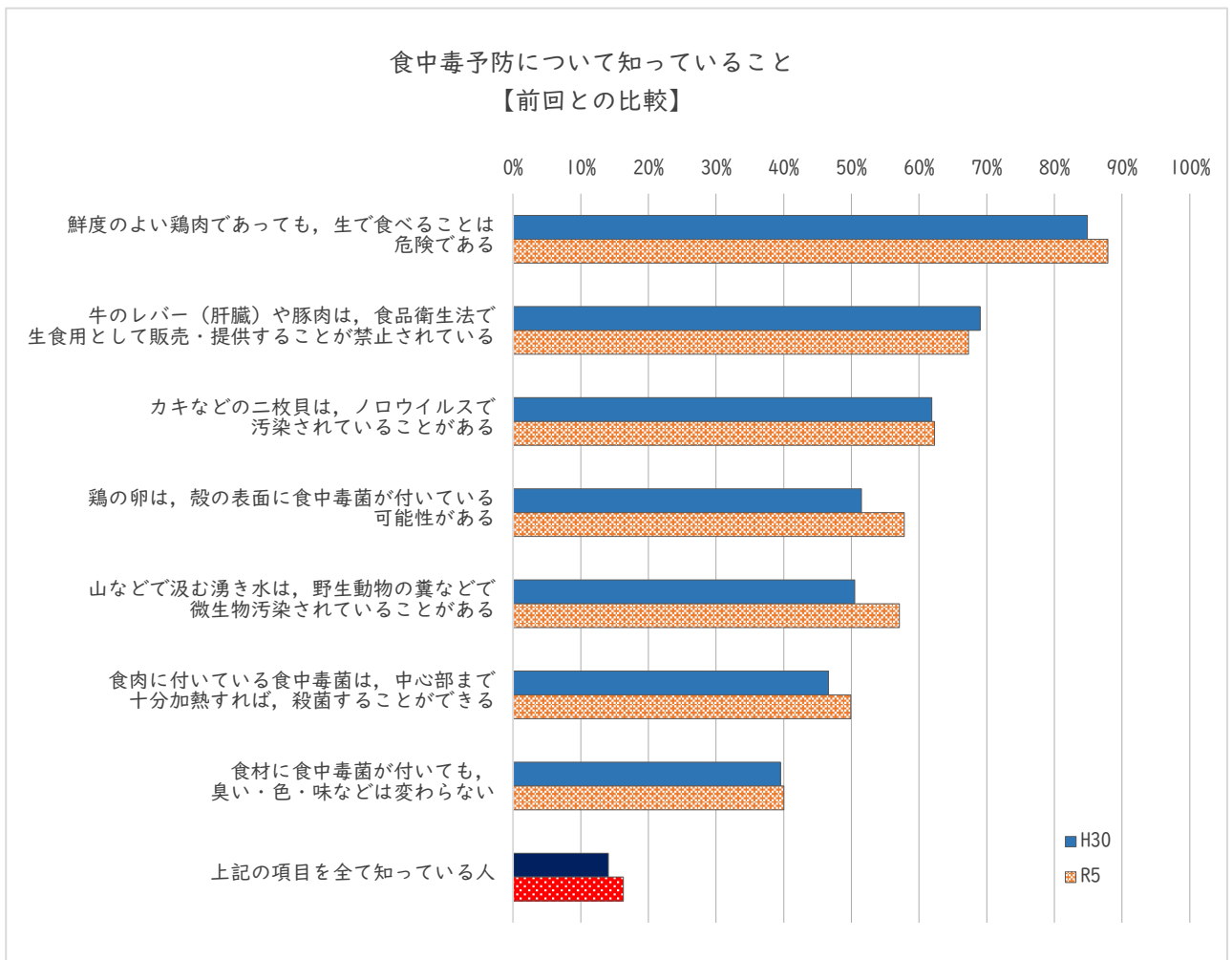


## ⑧食品の安全性について

あなたは、安全な食生活を送るための、食品の安全性に関する基本的な知識があると思いますか。

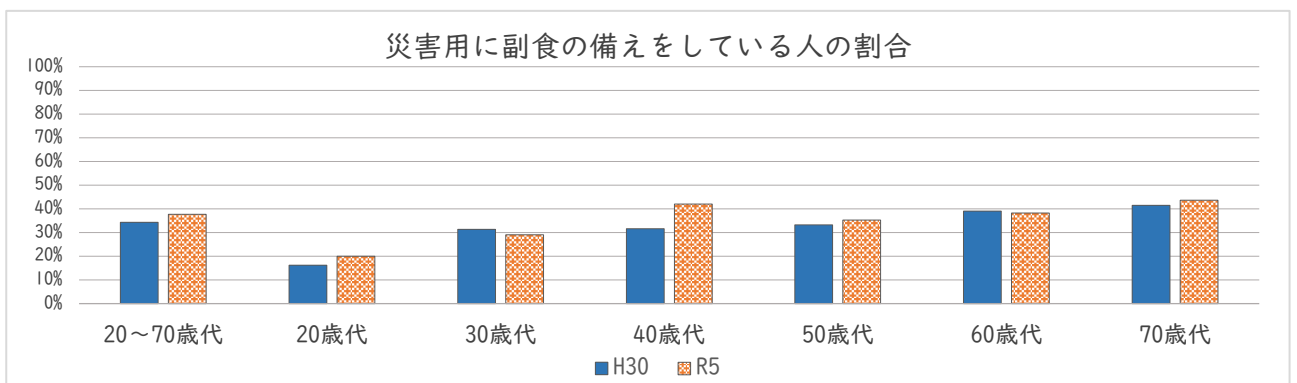
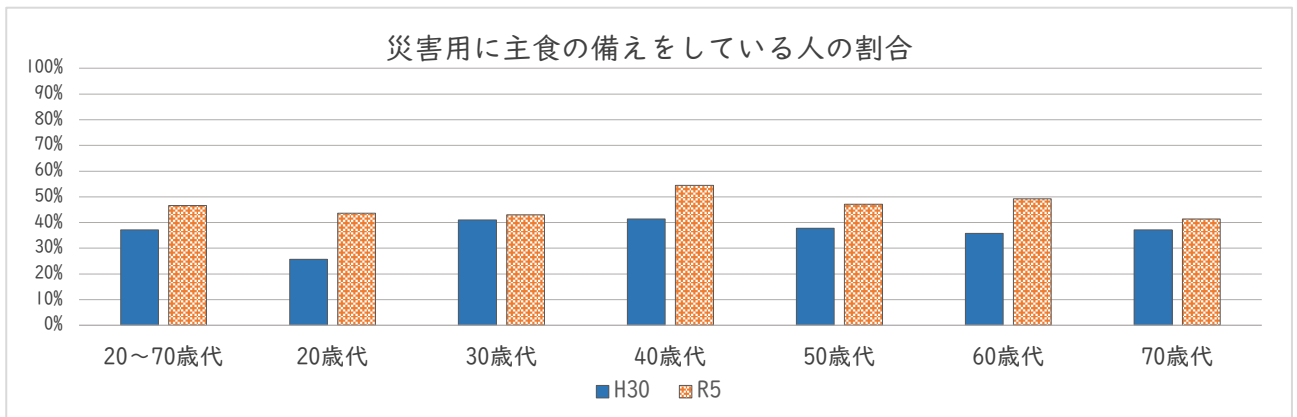
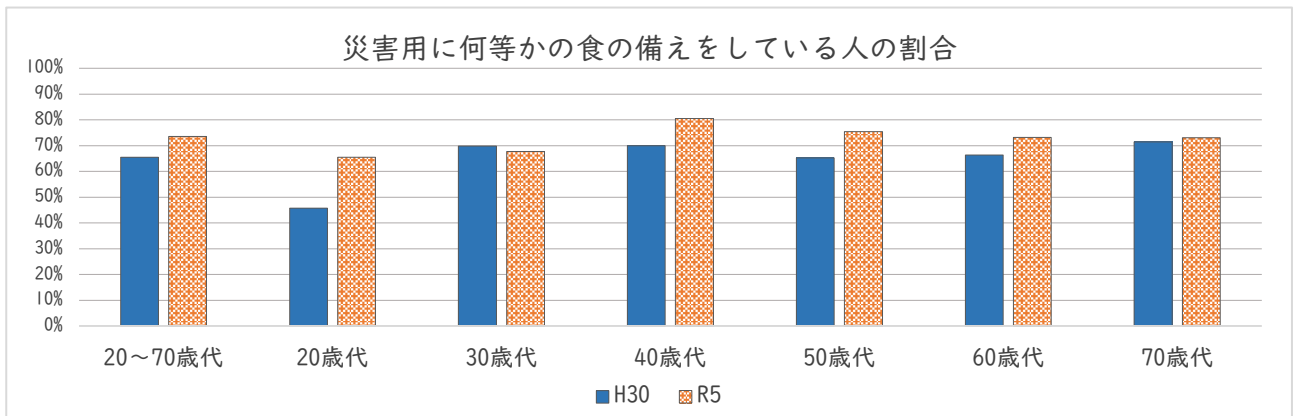
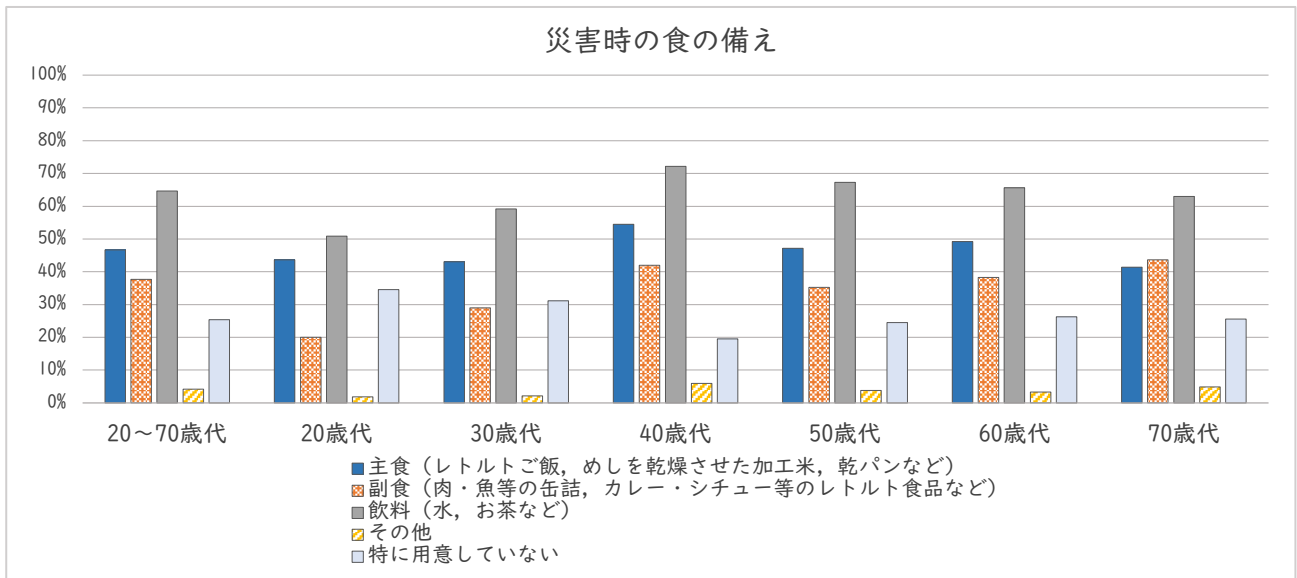


あなたが食中毒予防の知識について、知っている項目をすべて選んでください。(複数回答)



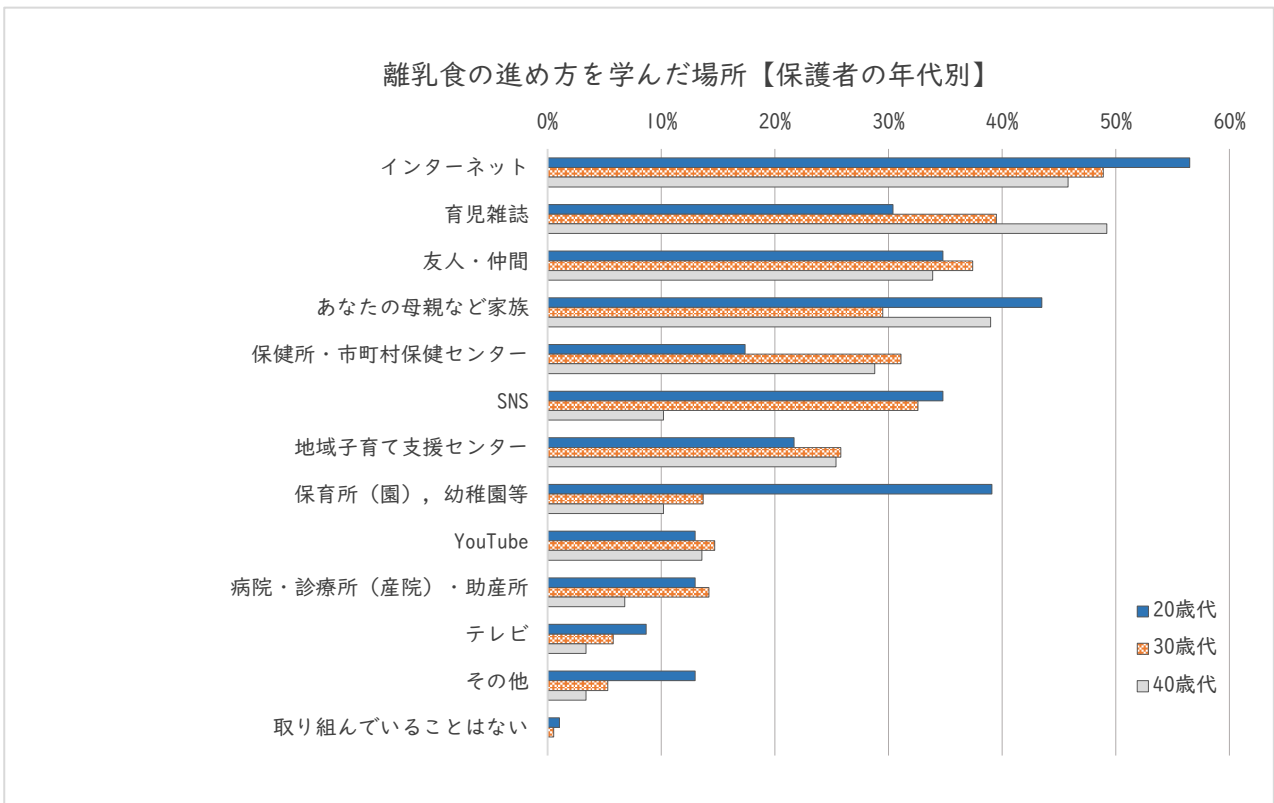
### ⑨災害時の食の備えについて

あなたの世帯は、災害時に備えて非常用の食料を用意していますか。(複数回答)



⑩その他

離乳食の進め方についてどこで(誰から)学びましたか。(複数回答) (学ぶ機会のあった人)

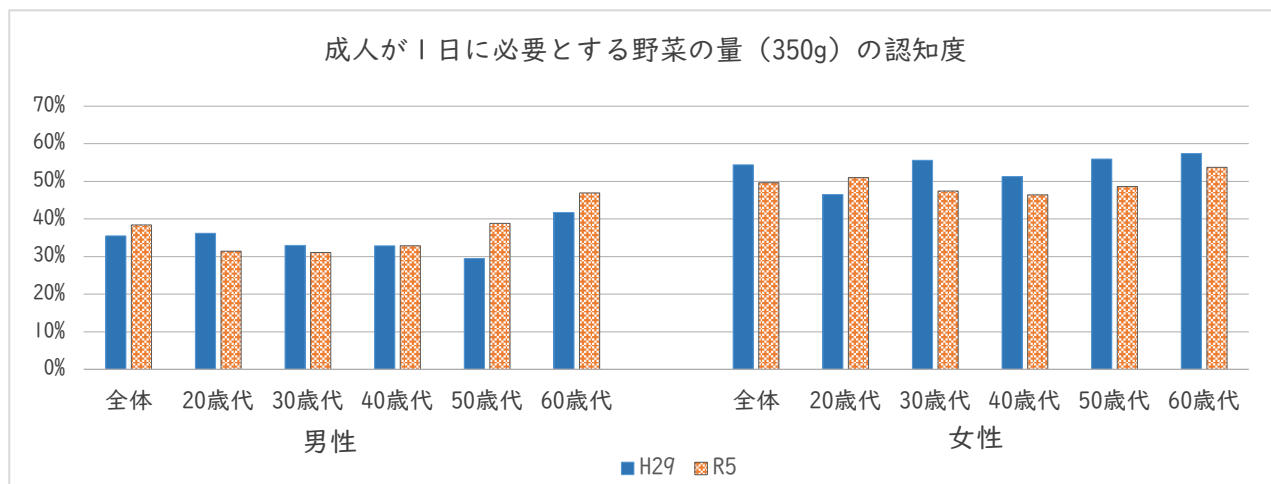


### (3) その他の調査等

#### ①高知市健康づくりアンケート調査結果から

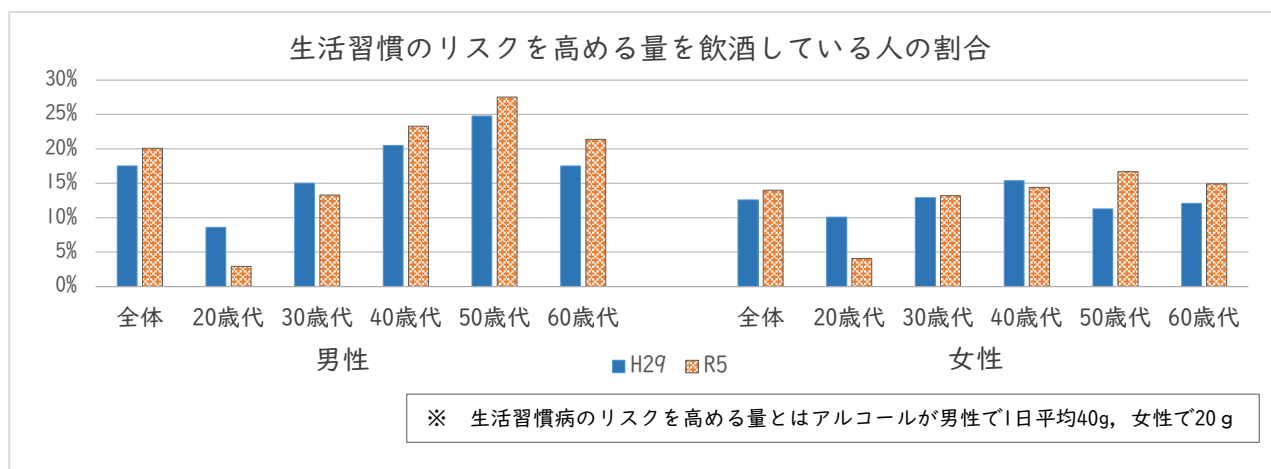
##### 【一般用(20~69歳)】

健康のために成人が1日に必要とする野菜の量(350g)について知っていますか。



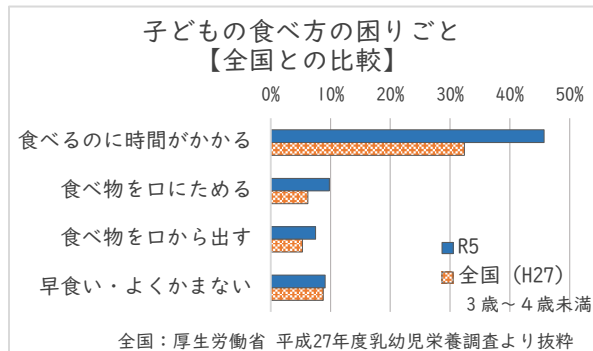
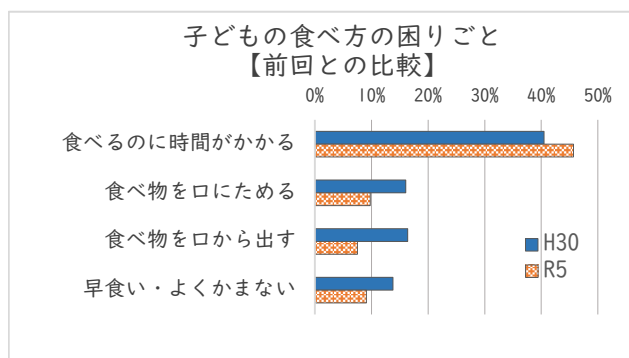
あなたは週に何日くらいお酒を飲みますか。

(補問 お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。※日本酒に換算)



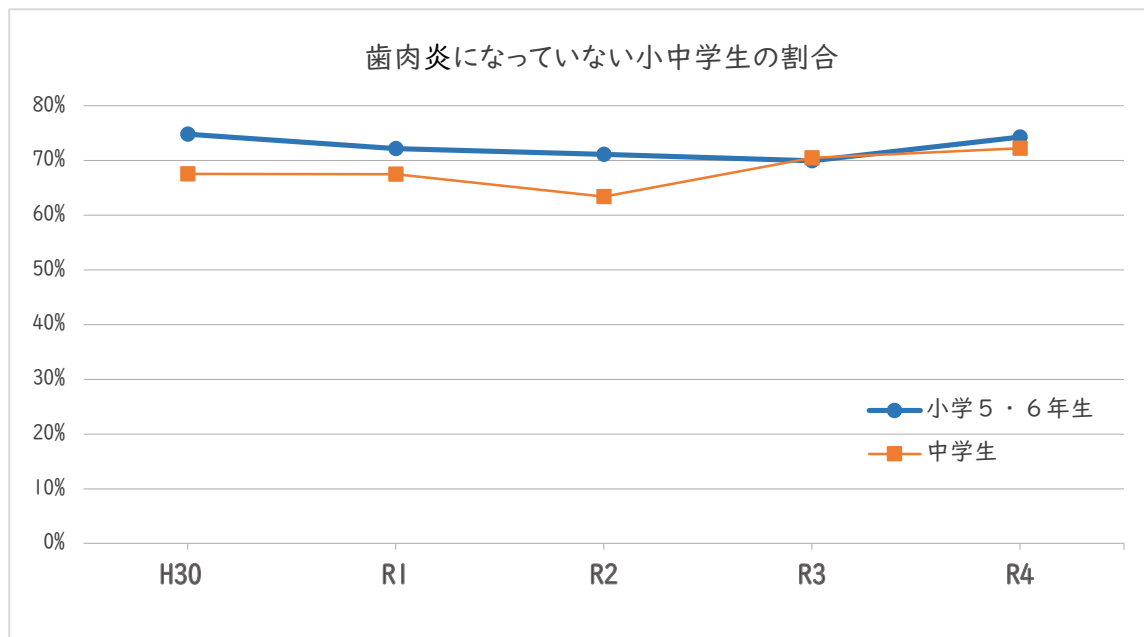
#### 【3歳児健診を活用したアンケート】

現在、お子さんの食べ方であてはまることがありますか。





②高知市立学校保健調査より



## 2 用語解説

(五十音順)

	用語	解説
あ行	栄養ケア・ステーション	栄養・食の専門職である管理栄養士・栄養士が所属する、地域密着型の拠点。
	オーラルフレイル	老化に伴う様々な口腔の状態（歯数・口腔衛生・口腔機能など）の変化により生じた口のささいな衰えをそのままにしておくことで、口腔機能低下、食べる機能の障がい、さらには心身の機能低下にまでつながる一連の現象および過程。
か行	街路市	高知市内で300年以上前から開催している生活市で、現在は日曜日、火曜日、木曜日、金曜日がある。とれたての野菜や果物をはじめ、干物や寿司、花、植木、骨董品、土佐打刃物など多彩な品物が店先に並ぶ。
	教育・保育施設	保育所・幼稚園・認定こども園のこと。
	共食	共に食事をとりながらコミュニケーションを図ること。「一緒に食べる」ことだけでなく、「何をつくろうか」「おいしかったね」と話し合うことも含まれる。
	誤嚥性肺炎	口の中の細菌が、唾液や食べ物などと一緒に誤って気管に入り（誤嚥）、そのために生じた肺炎のこと。
	孤食	一人で食事をとること。
さ行	10食品群チェックシート	高齢期の偏りがちな食習慣をバランスよく効率的に摂取するため、10の食品群に分類してチェックするためのツール。
	食生活改善推進員	通称：ヘルスマイト 「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に地域で活動を進めている、食を通じた健康づくりボランティアのこと。
	食中毒予防の3原則	食中毒は、その原因となる細菌やウイルスが食べ物に付着し、体内へ侵入することによって発生する。食中毒を防ぐためには、細菌の場合は、細菌を食べ物に「つけない」、食べ物に付着した細菌を「増やさない」、食べ物や調理器具に付着した細菌を「やっつける」という3つのことが原則となる。
	食品リサイクル	食品関連事業者（製造、流通、外食等）が、食品の売れ残りや食べ残し、食品の製造・加工の過程において生じた食品廃棄物を、飼料や肥料等の原材料として再生利用し、食品廃棄物の発生抑制と減量化を図ること。
	食品ロス	食べられるのに廃棄される食品のこと。
	生活習慣病	食事や運動・喫煙・飲酒・ストレスなどの生活習慣が深く関与し、発症の原因となる疾患の総称。糖尿病・高血圧・脂質異常症・高尿酸血症などがある。
た行	通所B	有償・無償のボランティアなどにより提供される住民主体による通いの場。
	低栄養	健康的に生きるために必要な量の栄養がとれていない状態のこと。

	用語	解説
は 行	HACCP (ハサップ)	Hazard Analysis and Critical Control Pointのそれぞれの頭文字をとったもので、「危害分析重要管理点」と訳され、事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入などの危害要因を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の方法。
	フレイル	身体的脆弱性だけでなく、精神・心理的脆弱性や社会的脆弱性などの多面的な問題を抱えやすく、自立障害や死亡を含む健康障害を招きやすいハイリスク状態。
ら 行	ライフコースアプローチ	胎児期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えて取り組むこと。
	ライフステージ	人の一生において、乳幼児期、学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期など、年齢に伴って変化するそれぞれの段階のこと。
	リスクコミュニケーション	食の安全に関する情報を公開し、消費者、食品等事業者、学識経験者及び行政担当者が、意見を相互に交換し、双方向の対話を図ること。消費者や食品等事業者を含む市民の意見を、食の安全や衛生に関する施策に反映することを目的とする。
	リハビリキッチン	みんなで料理を作って一緒に食べたりすることで、地域の共助力を高めて一人ひとりの介護予防につなげる活動。現在、特定非営利活動法人 食と健康を学ぶ会などが実施している。

### 3 検討の経過

#### (1) 高知市食育推進委員会

		開催日	議 題
令和 4年度	第1回	令和4年 5月31日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長, 副委員長選出</li> <li>・令和3年度の取組報告・令和4年度の取組予定について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画策定について</li> <li>・こうちし食育やるぞねっと情報交換会について</li> <li>・食育月間の啓発事業について</li> </ul>
	第2回	令和4年 11月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市食育に関するアンケート調査について</li> <li>・今後のタイムスケジュールについて</li> <li>・啓発事業取組報告</li> </ul>
	第3回	令和5年 1月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市食育に関するアンケート調査について</li> <li>・令和4年度取組報告, 令和5年度取組予定について</li> <li>・令和5年度食育の啓発予定について</li> </ul>
令和 5年度	第4回	令和5年 6月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長, 副委員長選出</li> <li>・第4次高知市食育推進計画策定について</li> <li>・第3次計画進捗状況について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画の方向性・骨子について</li> <li>・食育推進に関することについて</li> </ul>
	第5回	令和5年 9月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年高知市食育に関するアンケート調査集計結果について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画の骨子について</li> <li>・食育推進に関することについて</li> </ul>
	第6回	令和5年 11月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次高知市食育推進計画(素案)について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>
	第7回	令和6年 2月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリック・コメント実施結果について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画(案)・概要版(案)について</li> <li>・令和6年度食育の啓発予定について</li> </ul>

#### (2) 高知市食育推進会議

		開催日	議 題
令和 4年度	第1回	令和4年 12月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長, 副会長選出</li> <li>・第3次高知市食育推進計画進捗状況について</li> <li>・第4次食育推進基本計画について</li> <li>・高知市食育に関するアンケート調査について</li> </ul>
	第2回	令和5年 2月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市食育に関するアンケート調査について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>
令和 5年度		令和5年4月～6月	「高知市食育に関するアンケート調査」実施
	第3回	令和5年 7月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の取組報告, 令和5年度の取組予定について</li> <li>・高知市食育に関するアンケート中間報告について</li> <li>・第3次高知市食育推進計画総括について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画の方向性・骨子について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>
	第4回	令和5年 10月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知市食育に関するアンケート調査結果について</li> <li>・第4次高知市食育推進計画について</li> </ul>
	第5回	令和5年 11月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次高知市食育推進計画(素案)について</li> <li>・今後のスケジュールについて</li> </ul>
		令和6年1月15日(月) ～2月9日(金)	パブリックコメント実施
		令和6年 3月26日(火)	・市長報告

#### 4 高知市食育推進会議名簿

(五十音順 敬称略)

氏名	所属・役職	備考
坂本 尚紀	高知市農業協同組合営農経済部長	
武田 弘己	高知商工会議所青年部会長	R4.4.1~R5.5.18
三宮 幸弘		R5.5.19~
田岡 太郎	一般社団法人 高知市歯科医師会専務理事	
田村 真範	株式会社サンプラザ常務取締役	
近森 佐代	高知市小中学校PTA連合会副会長	
○新谷 美智	公益社団法人 高知県栄養士会会長	
西森 美恵	特定非営利活動法人 食と健康を学ぶ会理事	
濱渦 祥子	高知市食生活改善推進協議会会長	
濱地 扶美子	高知市立高知商業高等学校教諭	
金井 伸也	高知市立小中義務教育特別支援学校長会	R4.4.1~R5.3.31
藤田 由紀子		R5.5.19~
船井 守	一般社団法人 高知市医師会会長	
古谷 まり子	社会福祉法人 高知市社会福祉協議会地域協働課長	
水田 牧子	高知市民営保育所協議会園長会会長	R4.4.1~R5.5.18
水口 智裕		R5.5.19~
三谷 英子	学校法人三谷学園 RKC調理製菓専門学校常任顧問	
◎渡邊 慶子	学校法人高知学園 高知学園大学健康科学部管理栄養学科学科長	

※ ◎会長, ○副会長

#### 5 高知市食育推進委員会(庁内体制)

総務部	文化振興課
市民協働部	地域コミュニティ推進課
健康福祉部	基幹型地域包括支援センター
健康福祉部	生活食品課
健康福祉部	健康増進課
こども未来部	保育幼稚園課
こども未来部	母子保健課
環境部	新エネルギー・環境政策課
商工観光部	商業振興・外商支援課
農林水産部	農林水産課
教育委員会	教育政策課
教育委員会	学校教育課

※ 事務局：健康福祉部 健康増進課

## 6 高知市食育推進会議条例

高知市食育推進会議条例

(平成 30 年 1 月 1 日条例第 4 号)

(設置)

第 1 条 食育基本法（平成 17 年法律第 63 号。以下「法」という。）第 33 条第 1 項の規定に基づき、高知市食育推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第 2 条 推進会議は、次に掲げる事項について、協議及び必要な調整を行う。

- (1) 法第 18 条第 1 項に規定する市町村食育推進計画（以下「食育推進計画」という。）の作成に関する事項
- (2) 食育推進計画の実施の推進に関する事項
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、食育の推進のために必要な事項

(組織)

第 3 条 推進会議は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員 15 人以内をもって組織する。

- (1) 生産者又は事業者（法人その他の団体にあっては、その役職員等）
- (2) 医療又は保健団体関係者
- (3) 教育又は児童福祉関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 食育に関する施策の対象となる市民団体の役職員等
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が適当と認める者

(会長及び副会長)

第 4 条 推進会議に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第 5 条 委員の任期は、委嘱の日から委嘱した日の属する年度の翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会議)

第 6 条 推進会議の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2 推進会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(資料提供その他の協力等)

第 7 条 推進会議は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第 8 条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第 9 条 推進会議の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第 10 条 この条例に定めるもののほか、推進会議の運営について必要な事項は、会長が推進会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

2 この条例の施行の日以後最初に開催される推進会議の会議は、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

## 7 高知市食育推進委員会設置要綱

### 高知市食育推進委員会設置要綱

(平成21年6月21日制定)

(設置)

第1条 食育基本法(平成17年法律第63号)第18条第1項の規定に基づく高知市食育推進計画(以下「計画」という。)を円滑に実施するため、高知市食育推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- (1) 計画の実施に関する事項
- (2) その他食育の推進のために必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、食育に係る課の所属長の推薦を受けた職員のうちから、市長が任命し、又は委嘱する委員18人以内をもって組織する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、5年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員が任命され、又は委嘱されたときにおける当該身分を失ったときは、委員を辞したものとみなす。
- 3 委員は、再任されることができる。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 委員会は、その所掌事項を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、健康福祉部健康増進課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成21年6月1日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

- 2 この要綱の施行の日以後最初に開催される委員会の会議は、第6条の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

附 則

この要綱は、平成22年7月28日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

- 2 この要綱の施行の日以後最初に開催される委員会の会議は、この要綱による改正後の高知市食育推進委員会設置要綱第6条の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

## 第4次高知市食育推進計画

～豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと 元気！～

発行／令和6年3月

発行元／高知市

編集／高知市健康福祉部保健所健康増進課

〒780-0850

高知市丸ノ内1丁目7番45号 総合あんしんセンター1階

TEL 088-803-8005

FAX 088-823-8020

E-mail kc-140400@city.kochi.lg.jp